

No. 61 >>> Contents

●トピックス

- 小石丸を飼育して・・・・・・・・・・・・・・・・群馬県前橋市苗ヶ島町 前原 元———— ①
 日本蚕糸業史の光と「白い影」
 ・・・・・・・・・・・・・・・・横浜市史資料室 主任調査研究員 平野正裕———— ④
 平成 30 年（第 57 回）農林水産祭
 「明治 150 年記念シンポジウム（蚕糸業の新たな展開を目指して）」を開催して
 ・・・・・・・・・・・・・・・・公益財団法人日本農林漁業振興会 事業部長 山田敏彦———— ⑥
 玄界灘沿岸地域の弥生絹
 ・・・・・・・・九州大学名誉教授・元（一社）日本蚕糸学会理事 河原畑 勇———— ⑧
 平成 30 年西日本豪雨災害義捐金を贈呈
 ・・・・・・・・・・・・・・・・横浜絹フェスティバル実行委員会———— ⑬

●蚕糸・絹業史のひとコマ

- 江戸時代の蚕の病気、商標 MADE IN OCCUPIED JAPAN
 ・・・・・・・・・・・・・・・・シルク博物館 元部長 小泉勝夫———— ⑭

●研究・技術情報

- 消毒の作法 —その 3 消石灰の特長と使い方—
 ・・・・・・・・一般財団法人大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 主任研究員 野澤瑞佳———— ⑱

●蚕糸・絹業団体情報

- 歴史に学び、未来を思考・創造する 岡谷蚕糸博物館 —シルクファクトおかや—
 ・・・・・・・・・・・・・・・・館長 高林千幸———— ⑳

●イベント情報

●一般財団法人大日本蚕糸会から

- 養蚕農家との情報交換会の概要———— ㉘
 平成 30 年度第 4 次分の純国産絹マーク使用許諾状況———— ㉙
 純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧（H30- 第 4 次）———— ㉚
 一般財団法人大日本蚕糸会活動日誌———— ㉛

●蚕糸絹関係博物館一覧

●蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

●統計資料（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。）

小石丸を飼育して

群馬県前橋市苗ヶ島町

前原 元

平成 29 年春、群馬県農政部蚕糸園芸課から「小石丸」の飼育を要請されました。伊勢神宮より（一財）大日本蚕糸会に要請があり、小石丸の系統保存種を保有する群馬県に話しがあったそうです。提携システムはくれいの関係で、3年ほど細織度品種「白麗」を飼育した経験を踏まえての指名とのことで、養蚕人生の集大成の覚悟で取り組むこととしました。私の養蚕状況は、本誌 2016 年 5 月号（NO.48）に掲載いただいたことがあるので省略します。

小石丸と言えば日本古来の原種であり、飼育が難しく、繭は小さく、糸量も少ないと聞いています。しかし、糸の風合いは独特のものがあり、伝統を重んじる神宮では今後重用したい素材とのことです。そのような小石丸の特性が今流の飼育体系に合うのか、問題点と対応策、結果について、作業順序に沿って述べます。

平成 30 年春、神宮からいただいた「お神札」を蚕室におまつりし、群馬県蚕糸技術センターの春蚕期「小石丸飼育標準表」を頼りに飼育が始まりました。

1. 飼育準備—消毒

純粹原種なので、ひ弱ではないか（実は強い）と思い、蚕室蚕具とも各蚕期前、水洗い、消毒剤散布で済ませていたものを、蚕具については高度さらし粉 500 倍液浸漬を追加しました。ネットなどに付いた屑糸が溶けて、見た目もキレイになりました。さらに飼育中、通路、入り口に消石灰飽和液のジョウロ散布を行うことにしました。

2. 蚕種

群馬県蚕糸技術センターにて、系統保存種より製造したものです（6.5 箱：195,000 頭（予備含む））。



配蚕当日



配蚕当日の給桑

3. 稚蚕飼育

JA 前橋市稚蚕共同飼育所において、5月8日掃立、人工飼料により、一般品種と同環境で飼育されました。5月18日の3齢配蚕の時、初めて見る小石丸は、一般品種と比べると2齢かと思うほど小さい蚕でした。稚蚕飼育中の残飼料も多かったので、飼育主任は「次回は機械給餌でなく、手給餌にしてみたい。」と話していました。

4. 壮蚕飼育

給桑は4齢桑付けまで「もぎ桑細断」とし、以後は、前年夏蚕、初秋蚕時採桑後の台上萌芽条桑を使用して、蚕体へのダメージの軽減と蚕座のかさ高を抑えました。また、釣り網等の振り落としは、蚕体を傷つけないよう低く、ゆっくり行いました。

4齢後半、就眠ポーズが見られず、除沙拈座の網入れが遅れ、半分ほどが網下に止まってしまいました。網下の眠蚕を拾うこともできず、網上、網下それぞれ残条とともに別の飼育台に移動して拈座としました。そして、網下を大並早口として27日6時に、網上を大並遅口として8時間後の27日14時に、それぞれ5齢桑付けしました。以後、大並遅口は全ての作業が8時間差となります。

- ・ 5月31日6時 潜り止めの網入れ（下網）
- ・ 6月1日14時 上簇網入れ（上網）

5. 上簇

6月2日9時、大並早口の上簇作業を始めましたが、下網上は既に吐糸を始めてい

ました。蚕の数は、上網7割、下網3割ほどで、条払機にかける網の数が倍になりましたが、手拾いするよりは仕事が速く進みました。しかし、この糸を掛け始めていた熟蚕が後に大きな障害となりました。

回転簇への振込は、蚕体の小ささから玉繭になることを避けるために100頭/枚とし、熟蚕体重2.3～2.5gであったため、250gをボール簇毎に散らすように振込しました。回転簇の懸架後、玉繭の多発を心配していましたが、なんと、1つのマスの中に2つ並んで営繭していました。玉繭もありましたが、普通品種程度でした。



ボール簇中の「ふたつご」

上簇3日後あたりまで順調に営繭していると見ていたのですが、病蚕には見えないのに尿受に落下する蚕、薄皮状態で営繭を止める蚕が目立ってきました。両者合わせて上簇蚕数の1割に達するほどです。やがて、尿受ネット上の「ゴロツキ」状の蚕は重なり合ったままで、薄皮状態の蚕は死ごもりになることはなく、きれいな琥珀色に化蛹しました。「ハダカサナギ」です。大並早口に多く見られることから、上簇開始の遅れによる吐糸の中断、過熟による上簇過程のストレスが原因と思われます。

6. 収繭

(1) 6月9日：ボール下見

機械収繭を順調に行うため、ボール簇を回転枠から外しながら、死蚕、不良繭を取り除きます。先ほどの「ふたつご」も、押し出しクローラで潰れるかもしれないので、全て手取りしました。光に透かして、前述のきれいに化蛹した薄皮蛹を取り除く時は、申し訳ないことをしたと思います。

(2) 6月10日：マユクリンによる機械収繭

10年以上前、マユクリンの設計者と会った時、「群馬県蚕業試験場から、小石丸専用のマユクリンの製作依頼があったが、断った。」と伺ったことがあったので、小石丸飼育に当たっての最大の心配事でした。繭の排出板を最狭にセットしてボール簇を押し出しクローラにかませると、きれいに繭が飛び出てきました。排出されたボール簇には2～3個の取り残しがあり、よく見るとボールマスの隅に作られた繭が押し出しきれずに残るようです。

きれいに毛羽取りされた小石丸が選繭台に並ぶと、真ん中がくびれていて、小さな雪ダルマが転がっているようで、ひょうきんに見えてきます。

(3) 6月11日：繭出し

朝、再選繭しながら繭袋に入れ、JA 前橋市集荷場へ。(一財)大日本蚕糸会の担当者、群馬県関係者の確認を経て、177.4 kgの繭は、糸になるため、クール便で東京と長野へ旅立って行きました。



選繭

後日、繭の品質評価成績が送られてきました。目標収繭量 150 kgをクリアでき、成績も「小石丸としては良い」との評価をいただき、胸をなで下ろしているところです。古来より、永々と営まれてきた日本文化の継承の一端に携われたことに、感謝申し上げます。

「小石丸」繭生産量と品質評価成績

繭生産量	177.4 kg
生糸量歩合	10.2 %
解じょ率	77 %
繭糸長	377 m
繭糸織度	2.88 d
500 g 粒数	425 粒

日本蚕糸業史の光と「白い影」

横浜市史資料室

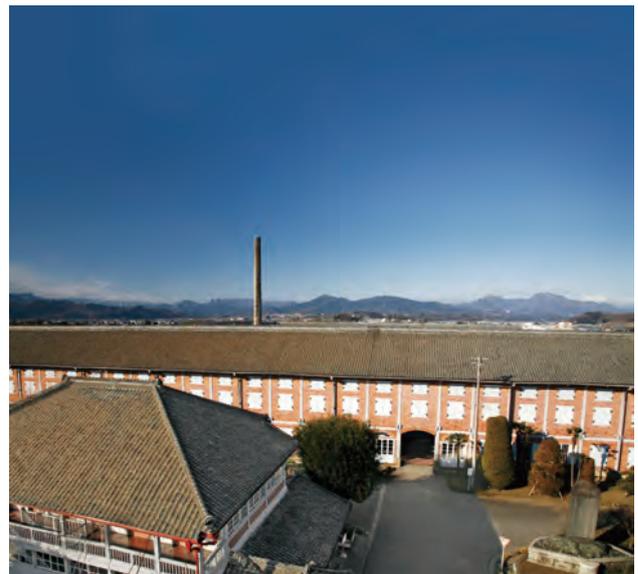
主任調査研究員 平野正裕

1. 富岡製糸場と生糸売込商・原富太郎

「富岡製糸場と絹産業遺産群」が2014年に世界遺産に指定された。生糸の国内生産は“風前の灯”であるから、かつて隆盛を誇った日本製糸業の歴史に光があたり、その施設が永く残ることは喜ばしい。明治5（1872）年創業の富岡製糸場は、官営21年間ののち、三井が9年間経営した。横浜では、三井から引継いで明治35（1902）年から実に37年間にわたり経営した生糸売込商・原合名会社の原富太郎が注目されている。富太郎は日本庭園「三溪園」を横浜に残し、生糸貿易の繁栄を今日に伝えた。とはいえ、富岡製糸場と原富太郎の両者への偏った注視は、周辺にあるものをかえって見えにくくしているように思われる。

2. 座繰り糸の改良と器械製糸の発展

富岡製糸場のある群馬県は、座繰り糸の産地であった。養蚕農家が産み出す座繰り糸の量は圧倒的で、19世紀末まで横浜生糸市場で、共同出荷の結社である碓氷社・甘楽社・下仁田社の存在感は大きかった。とくに碓氷社は出荷する座繰り糸の品位に応じて付与する「商標」を厳格にして公明さを主張し、生糸を集める基盤を関東一円に広げた。



富岡製糸場（東置繭所） 提供 富岡市

また、富岡に学んだ各地の器械製糸も、大規模な乾繭設備や機械動力、鉄製の繰糸器械を揃えられる者はいなかった。動力を水車や人力で、乾繭を小規模の火力や天日で対応し、器械を木製で代替して、器械製糸家は自立していった。器械製糸は原料を1年かけて生糸にすることが設備や労働力の効率的な利用であった。しかし、原料繭の出回りは、春と夏、のちには秋と数回であった。多額の繭購入資金を貸与し、あるいは出荷した生糸を担保に発行された荷為替手形の割引をつうじて、代金決済前に資金を融通したのが横浜の生糸売込商であった。

3. 横浜生糸売込商の多角経営

産地の生糸商や製糸家から出荷された生糸を外国商館に仲介し、販売代金に対して一定の売り込み手数料や保管料を差し引き決済する。それが1859年の開港以来横浜の生糸売込商が担ってきた基本業務であった。その後、器械製糸の勃興・発展と、近代的銀行制度の普及のなかで、製糸家に対する金融機能が重要となり、これに対応できなかったほとんどの生糸売込商は廃業した。1890年代を迎えることができたのは、原善三郎と茂木惣兵衛だけであり、そののちは新しい時代の生糸売込商が誕生した。原と茂木の二人はそれぞれ第二国立銀行と第七十四国立銀行を機関銀行として資金需要をまかなった。そのような第一世代に次ぐ第二世代が、原富太郎と茂木保平であった。

第二世代は、生糸売込商（+金融）に加えて、多角経営を目指した。原富太郎は富岡製糸場や名古屋製糸場を経営して生糸製造業、すなわち製糸家となり、外国商館を介さない生糸の直輸出をすすめた。一方、茂木保平は福井県に羽二重工場を創設して絹織物業に進出して「野沢屋輸出店」を介して直輸出し、またシルクのドレスや絹製品を製造・販売する「野沢屋絹商店」を展開した。茂木保平の事績は原富太郎に比して語られることが少ないが、輸出品としては欠格となった国用糸を加工し、ふたたび輸出に向ける構想を実現したものであった。

まとめ

日本人はわかりやすい英雄を好む。戦



原合名会社・原富太郎（号：三溪）

国時代の織田信長や明治維新の坂本龍馬など…。富岡製糸場は歴史的人物ではないが、工場で生糸を作るといふことはどの様なものであるかを世に知らしめた。そして全国に連鎖的に勃興する器械製糸の核となった。しかし、同じ群馬県で展開した座繰り糸の改良を語るものではなかったし、富岡を模倣して全国に器械製糸を普及させた人々の、現実と折り合いをつけつつ発揮した努力も顧みるところが少なかった。横浜では、原富太郎の富岡製糸場経営と生糸直輸出の試みは語られても、茂木保平の構想を知る者はない。対象に照射する光が強すぎる写真はハレーションを起こして、より小さな対象物を「白い影」で蔽いつぶしてしまう。日本蚕糸業史上に先人が残したあらゆる努力とその実現の有り様と豊かさを知ることが、西洋近代へのキャッチアップを叶えていった後進国日本の精神史を語ることに繋がると私は思うのである。

平成30年（第57回）農林水産祭 「明治150年記念シンポジウム（蚕糸業の新たな展開を目指して）」 を開催して

公益財団法人日本農林漁業振興会

事業部長 山田敏彦

昨年12月17日（月）に群馬県前橋市のホテルラシーネ新前橋において、「蚕糸業の新たな展開を目指して」というテーマでシンポジウムを開催しましたので、その概要を報告いたします。

今回のシンポジウムは、農林水産祭の一環として実施されたものです。農林水産祭は、昭和37年から農林水産省と（公財）日本農林漁業振興会との共催で実施されてきた行事で、毎年、前年の8月から当該年の7月までに全国各地で開催される農林水

産関係の表彰行事（約300）において、農林水産大臣賞を受賞された団体や個人（約500）の中から、厳正な審査を経て、農産・蚕糸、園芸など7つの部門ごとに天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の3賞を選定し、11月23日の勤労感謝の日で開催される農林水産祭式典において受賞者の表彰を行っております。

また、平成30年は明治維新から150年目に当たることから、政府や地方自治体などで多彩な記念行事が行われましたが、農林水産祭でもこれに因んだ行事を行うこと



パネルディカッション

となり、明治期に日本の産業を牽引した蚕糸業との関連から平成26年度蚕糸・地域特産部門において天皇杯を受賞された「碓氷製糸農業協同組合」（現：碓氷製糸株式会社）の業績を取り上げて、シンポジウムを開催することになりました。

なお、シンポジウムの副題を「蚕糸業の新たな展開を目指して」としていますが、このテーマは「明治150年」という過去を振り返るのではなく、むしろ、将来を語るものにしたいというコーディネーターをはじめとする関係者の皆様の強い意向により設定されたものです。

当日は、主催者側として農林水産省の島田和彦研究総務官に、また、開催地である群馬県からは塚越昭一農政部長（代読 土屋真志蚕糸園芸課長）にご挨拶をいただきました。

シンポジウムは、まず、受賞当時、農林水産祭中央審査委員会の専門委員を務め、現地調査にも携わられた前農研機構（注）・顧問の町井博明氏から、農林水産祭の仕組みや審査の方法、また、碓氷製糸農業協同組合が高く評価された点などについて、ご報告をいただきました。

次に、碓氷製糸株式会社の高木賢社長から、「需要減退の下での苦闘」と題して、製糸工程の概要についての説明、受賞後にさらなる生糸等の需要減退が進んでいる状況やその中で6A生糸の生産や絹製品の販売など様々な努力を行っていることについ

てご講演いただきました。

パネルディスカッションは、上毛新聞社の藤井浩顧問をコーディネーターに、講演いただいたお二方に加え、群馬県蚕糸園芸課の土屋真志課長、有限会社西尾呉服店の西尾仁志社長、JA前橋市養蚕連絡協議会の松村哲也会長にご登壇いただきました。

パネルディスカッションの内容については、紙面の都合で極一部を紹介しますが、テーマに添って、国産生糸には6A生糸の生産技術やトレーサビリティが可能といった強みがあること、遺伝子組換え蚕が養蚕農家に夢を与えてくれるものであること、養蚕から絹製品の生産販売まで関係者の連携が必要等々、厳しい現状を踏まえつつも、大変熱心かつ前向きに議論していただき、蚕糸業関係者にとって有意義なイベントとすることができました。

会場は、着物の展示や絹製品の販売など華やかな雰囲気にも包まれ、群馬県下の養蚕農家、蚕糸業、行政、富岡製糸場等の関係者、学生などに加え、県外からの参加者もあり、約130名の出席により、盛会裡に終了することができました。

最後に、開催に当たり、ご協力いただきました群馬県並びに（一財）大日本蚕糸会の皆様に衷心より感謝申し上げます、シンポジウムの報告とさせていただきます。

（注）農研機構：農業・食品産業技術総合研究機構

玄界灘沿岸地域の弥生絹

九州大学名誉教授・元（一社）日本蚕糸学会理事
河原畑 勇

はじめに

九州北部玄海灘沿岸地域は日本最初の養蚕および稲作が中国江南から伝播したことで知られています。この地域の古代文化は地理的關係から、当然のことですが中国大陸および朝鮮半島の古代文化の影響を強く受けてきました。また、歴史時代になってからも、大陸からわが国への人および文化交流の窓口として、重要な役割を果たしてきたことで知られています。茶、饅頭等もこのルートでわが国に伝わりました。

中国江南における養蚕のはじまり

東アジアの現生人類が新石器時代の生活に移行したのは紀元前 12000 年頃と推定されています。養蚕発祥の地が新石器時代の中国であることは、文字発明以前の長江中下流域、杭州湾地域および黄河流域（中原）の遺跡から考古学的発掘により出土した、養蚕に関連した遺物（蚕紋牙雕小盅、絹製品、陶製蚕児および蛹）などの間接的証拠の品々からも明らかです。中国江南における養蚕の始まりを間接的に証拠付ける考古学的発掘物品に河姆渡遺跡第 3 層（紀元前 4500 年頃）から、表面に 6 匹のカイコと思われる線刻のある、祭儀用杖の頭飾

りと思われる象牙製の蚕紋牙雕小盅（図 1）が見つかっています。殷代中期以前までは中国にアジアゾウが棲息していたので、この牙雕小盅の材料となった象牙は交易品ではないと思われます。養蚕発祥の地中国で出土した絹織物で、最古のものは中国河南省滎陽^{けいよう}青台村出土の紀元前 3500 年頃の平織りや絞経絹織物^{こうけい}です。次に古い絹織物には良渚文化^{りょうしよ}（紀元前 3400～2250 年）



図 1 蚕紋牙雕小盅、カイコ様線刻あり、象牙製（縦 4.5cm、横 3.5cm、高 4.3cm）、河姆渡遺跡出土（紀元前 4,500 年頃）、浙江省博物館蔵、アジア文明交流展 邪馬台国への道のり（1993 年）より

の浙江省^{せんざんよう}銭山漾出土の紀元前 2700 年頃の平織絹が知られています。

中国春秋時代（紀元前 770 ～ 473 年）江南の地に誕生した呉国は春秋五覇の一国に数えられた強国でしたが、長年の越や楚との抗争の末、紀元前 473 年に越王^{えつおう}勾踐に滅ぼされました。盛唐の詩人李白は「越中覽古」に「越王勾踐破呉歸（越王勾踐が呉の国を打ち破って凱旋してきた）、義士還家盡錦衣（忠義な勇士達はそれぞれ恩賞として賜った、錦の衣服を着飾って故郷に帰ってきた：故郷に錦を飾るのはじまり）」と表現しています。呉越共に養蚕絹織技術レベルの高い国々でした。

江南文化の九州への伝来

古代江南の稲作と養蚕は河姆渡文化（紀元前 5000 ～ 3300 年）から馬家浜文化（紀元前 5000 ～ 3350 年）、崧澤文化（紀元前 3800 ～ 3350 年）、良渚文化（紀元前 3400 ～ 2250 年）へと引き継がれ、それに伴って長江中下流域では人口の増加、村落から権力を伴う社会が出現して、都邑^{とゆう}から城塞を持った都市へと発展したとされます。河姆渡文化に始まる江南文化の発展過程は、水田稲作に養蚕絹織が加わり、金属精錬と加工技術の進歩、さらに水上交通による地域外交易を含む商業の発達に至ったように見えます。古代江南の先住民百越は漢族ではなく、沿岸漁業および稲作と養蚕絹織が盛んな先住民であったとされています。江南の住民が大挙して海に逃れた事態は、中国戦国時代の呉越国の滅亡および

秦の始皇帝による中国全土の統一の際に、最も大量かつ広範に発生したとされています。江南から海に逃れた人々およびその子孫が玄海灘沿岸に渡来して、稲作、養蚕絹織、金属精錬加工技術、木造船による航海技術、江南と倭国間の安全な海上ルートなどを倭国に伝えたと思われます。

倭国養蚕

江南の蚕糸技術も温帯ジャポニカイネと同様、韓国南部経由または直接航ルートで九州北部に渡来した可能性があると言えます。それは単なる技術移転ではなく、多くの弥生人の江南からの移住に伴ったもので、玄海灘沿岸に伝来した江南蚕糸技術は当初から、江南呉越直伝の高い技術レベルの養蚕業が玄海灘沿岸地域に定着したと考えられます。

わが国から出土した最古の絹織物は、福岡市早良区有田遺跡から出土した細型銅矛に付着していた平織絹で、弥生前期（紀元前 400 ～ 350 年頃）の終わり頃とされています。日本で養蚕および絹織物の生産が開始されたのは弥生時代前期末（紀元前 350 年頃）と推定され、その場所は九州北部に集中しています。従ってわが国に養蚕および絹織物生産技術が最初に導入された時期は、さらに弥生時代前期末（紀元前 350 年頃）以前ということになります。弥生中期（紀元前 350 ～ 紀元 100 年頃）前半においては、4 眠蚕であった可能性の高い江南系蚕品種が多く飼育されていたとみられることから、弥生前期・中期の養蚕技

術は主として江南方面（江蘇省、浙江省方面）から伝えられたと思われます。また、弥生中期中葉以降になって、細い糸の得られる朝鮮半島楽浪系三眠蚕品種が九州北部に導入されたようです。一方、九州以外の中国地方や近畿地方の遺跡から国産の絹織物が見られるようになるのは古墳時代以降になります。

邪馬台国の女王卑弥呼が魏帝から贈られた織物類

景初二年（238年）6月倭王卑弥呼は使者（難升米、都市牛利）を帯方郡に派遣し、魏帝に拝謁したい旨を帯方郡の太守劉夏に申し出たので、劉夏は魏国の役人に命じて倭国の使者を洛陽まで送らせ、難升米、都市牛利は魏の明帝に拝謁しました。翌年の景初三年（238年）、倭王卑弥呼は男生口4人、女生口6人、斑布二匹二丈を明帝に朝貢しています。明帝は景初三年（238年）12月に倭国の朝貢に対する返礼として、倭王卑弥呼に対し紫綬、紺地句文錦、細班華罽、白絹を賜与しています。また、倭王卑弥呼の使者、難升米、都市牛利に対しても青綬を授け、倭国の貢直に対しては絳地交龍錦、絳地縹粟罽、蒨降、紺青などの中国産最高級織物が贈られました。また、魏帝は答礼のため正始元年（240年）魏の太守弓遵に命じて建中校尉梯儁を邪馬台国に派遣しました。梯儁は魏帝からの詔書、印綬、金帛、その他の賜品を携えて倭国に至り、邪馬台国女王卑弥呼に授与したとされています。従って卑弥呼は正始元年（240

年）に明帝から賜与された中国産の最高級織物を、邪馬台国で受け取ったと思われます。

邪馬台国の女王卑弥呼が魏帝に献上した絹織物

最初の朝貢から3年後の正始四年（243年）、今度は卑弥呼が倭国産の絹織物（倭錦、絳青縑、緜衣、帛布）（表1）を明帝に朝貢しています。邪馬台国女王卑弥呼が一見して品質の劣るような倭国製絹織物を、魏帝への献上品に選ぶはずはありません。すでにこの時代、倭国では中国製最高級絹織物に勝るとも劣らぬ、倭国産高品質の絹織物が作られていたと見るべきです。倭国の絹織工たちは、魏帝から卑弥呼に贈られた中国産最高級絹織物を直接眼にして、強烈な刺激を受けたと思われます。絹織大国であった呉越の伝統を受け継いでいる倭国の絹織工たちは、倭国産絹織物の高い品質と優れた染色技術を、本家中国の皇帝に直接示す絶好の機会と捉え、中国産最高級絹織物を念頭に強烈な対抗意識をもって、絹織物制作に励んだのではなかったでしょうか。倭国産の絹織物について魏宮廷の評価は不明ですが、一般に中国大陸の水は硬水のため、絹糸や絹織物の染色には不適で、絹製品の染め上がりには格段の差が生じます。一方、倭国では絹織物の染色に最適の軟水を豊富に利用できるため、倭国産錦の染め上がりは素晴らしく、本家中国産錦を上回る鮮やかな色彩は魏帝を驚かせたと思われます。さらに、卑弥呼の後継者

となった台与も正始八年（247年）に生口と共に倭国産の錦織（異文雑錦）を魏帝に朝貢しています。この異文雑錦も高度の染色技術と織り方で作られた絹製品で、倭国自慢の高級絹織物であったと思われます。そうでなければ再度、高級絹織物の本家中国に対し倭国産の絹織物を朝貢の品に選ぶはずがありません。

正始四年（243年）の朝貢のために邪馬台国から派遣された伊声耆および掖邪狗ら一行8名の使者達は、倭国自慢の高級絹織物を受け取った魏帝齊王芳を始め、魏宮廷の面々特に魏帝妃および宮廷の女官達の反応を注意深く見守ったことでしょう。おそらく魏帝妃を始め宮廷の女官方の倭国産絹織物に対する評判は上々で、倭国の使者達はその面目を施す結果になったと思われます。そうでなければ卑弥呼の死後、新たに邪馬台国の女王となった卑弥呼の宗女台与が朝貢した際、再び倭国産異文雑錦二十匹を献上することにはならなかったでしょう。

弥生絹から見た邪馬台国

弥生絹の出土した福岡県の遺跡数は、佐賀県や長崎県のそれより圧倒的に多く、弥生時代に養蚕絹織りが最も盛んな地域であったことは明らかです。布目順郎先生は著書「倭人の絹」（199年）の中で、「弥生絹の出土地域は福岡、佐賀、長崎の三県に限られているので、倭は北部九州を中心とする地域を指しているのではないかと思えてくる」と述べています。そして、「私には

女王の都する邪馬台国は養蚕絹織りの観点に立つかぎり、北部九州にあったとするほうが理屈にあっているように思える」と邪馬台国九州説を支持しています。さらに、「今後について、これまで北部九州から出土した絹製品に匹敵する量の絹製品が、大和地方の弥生遺跡から出土することがあればこの限りではないが、そのようなことはまずありえないであろう」と述べられています。

これまでわが国では魏志倭人伝をもとに、邪馬台国の所在について様々な見解と議論が重ねられてきました。伊都国から邪馬台国へは、魏志倭人伝には南に陸行一月水行十日と書かれてはいますが、日は月に誤写される可能性があり、人口や距離等もあてにはなりません。そこで魏志倭人伝中の距離、所要日数、人口などの数値を総て無視し、九州北部の弥生時代における水田稲作遺跡と発掘された絹織物の分布のみに基づき、邪馬台国の所在を考察すれば、「邪馬台国は遠賀川から平戸にまたがる伊都国および奴国を中心とする弥生時代の玄海灘沿岸文化圏に存在した、水田稲作、養蚕絹織、石器および陶器製造、金属（青銅および鉄）加工および製造、交易や海運などに朝鮮半島および江南の文化の影響を強く受けた国」との結論に至ります。

表1 邪馬台国が魏帝に献上した織物類

魏曆（西曆）	献上織物	備考
景初三年（239）	班布 （二匹二丈）	班布は桐華布（パンヤの繊維が原料）、白畳布（木綿織物）、大麻布、苧麻布等の植物性繊維で織られた布をいう。倭国産の班布は大麻布か苧麻布と思われる。
正始四年（243）	倭錦	倭国産の錦織。多数の色糸で作る紋織物。地組織に斜文、朱子などの組織を用い、これに金銀糸および綾糸を絵ぬきとして、華麗な紋様を織りだした厚地の美術的絹織物。本来は錦地（斜文地）に赤・黄・紫・緑・白の五色の色糸で文様を織りだした絹織物。
	絳青縑	経糸と緯糸をそれぞれ異なる色に染めて織られた絹織物。吉野ヶ里からは経糸を日本茜、緯糸を貝紫で染めた弥生時代の絹織物が出土している。
	懸衣	<small>めん</small> 懸は真綿で、懸衣は真綿を中に入れた衣服。真綿を使った綿入れは非常に軽く、保温効果が特に優れている。
	帛布	<small>はく</small> <small>へき</small> 帛とは璧のように美しい白絹をさす。ただし帛布という織物名はないので、帛と布に分けて読み、純白の絹布をさしているのであろう。
	異文雑錦 （二十四匹）	<small>いもんざっきん</small> 異文雑錦は中国産錦とは文様の異なる、幾種類かの倭錦の意であるかも知れない。

布目順郎：倭人の絹（1995）

平成 30 年西日本豪雨災害義捐金を贈呈

横浜絹フェスティバル実行委員会

横浜絹フェスティバル実行委員会は、横浜繊維振興会、シルク博物館、横浜高島屋など横浜を代表する蚕糸・絹関係の会社・団体に加え、横浜ベイホテル東急など主要なホテルで構成されています。同委員会は、平成 30 年 11 月 15 日～17 日に横浜港大さん橋国際客船ターミナルホールで「第 3 回横浜絹フェスティバル」を開催いたしました。この会場で平成 30 年西日本豪雨災害により被災された愛媛県大洲市の養蚕農家を支援するため、来場者に義捐金を募りました。これにあわせて、同委員会のメンバーである横浜市内 8 つのホテル（ホテル

ニューグランド、ヨコハマグランドインターナショナルコンチネンタルホテル、横浜ロイヤルパークホテル、横浜ベイホテル東急、ホテルモントレ横浜、ローズホテルインターナショナル、横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ、新横浜プリンスホテル）が販売したシルクスウィーツ&カクテルの売上金の一部を義捐金に加え、愛媛県で養蚕農家の支援、絹製品等の商品企画を手掛ける（株）リバースプロジェクトトレーディングを經由して、被災養蚕農家に多くの人々の暖かいお気持ちを贈りました。



写真：東京有楽町蚕糸会館にて左より（敬称略）

横浜絹フェスティバル実行委員会事務局長	池田喜政
横浜ベイ東急ホテル総支配人	陣内一彦
横浜絹フェスティバル実行委員長	松村俊幸
株式会社リバースプロジェクトトレーディング	
代表取締役	河合 崇
一般財団法人大日本蚕糸会会頭	小林芳雄

シルク博物館

元部長 小泉勝夫

その13 江戸時代の蚕の病気

すでに江戸時代には養蚕・製糸等に関する技術書である蚕書が出され、数多く現存している。

従って蚕書は江戸時代の蚕糸技術や蚕糸経済等を知る上で欠くことのできない貴重な資料である。

今回は江戸時代の蚕の病気に視点を置いて、これら蚕書を覗いてみた。

江戸時代には、どんな蚕病があったのだろうか。

現存する蚕書の中で最も古いとされる1702(元禄15)年の野本道玄著「蚕飼養法記」には蚕病のことは見当たらないが、3年後の1705(宝永2)年の武富威亮著「蚕母要覧」には「むし わずらひて 色あしくなるを おもかハリ すると云 又 色のよくなる越 おもな越りするといふ…」(読み:虫患いて色悪くなるを、面変わりするといひ、また、色よくなるを、面なおりするといふ…) (現代文:蚕が病気で体色が悪くなることを面変わりするといふ。また、病気が回復し体色がよくなることを面なおりするといふ…) とあるのみで、病気の内容については全くふれられていない。

ところが、時代を下り1803(享和3)年に上垣守國によって執筆された「養蚕秘録」には蚕の病気のことが出ている。

本書はフランス語訳され「我が国からの技術輸出第1号」と云われた江戸時代の有名な蚕糸技術書である。

本書の中巻に「蚕の善悪ならびにやまい并 病見様の事」(注:蚕の良し悪しと病気の見分け方)と題して記述されているので見てみよう。

「獅子休みの中に 白き節あつて 水出る蚕有バ 庭の居起にあしく成べし 是は冷たる蚕 又は 暖過たる蚕にあるべし 獅子の居尻とる跡に 死たる蚕あらバ 是は障子の隙間より湿風にあたり 又は毒に当りし蚕と するべし 鷹の居起 船の眠起に 頭細き蚕 多出来 桑喰切悪くは 厚飼 歟 又は 種もと 悪き とするべし 又 船の時分 ちゞけたる蚕 多くあらば 暑氣に 当りしと知るべし 又居しらず という蚕あり 是も所によりて 色々の異名あり 是は 寒暖の手入 悪しく 先は 冷湿に あたりし 蚕に多く出来る也 又 居尻に かび出来たる蚕に多くありと 知るべし 又 蚕器のへりに 多く登ることあり 是は 厚飼にて 少しいたミ 病気の下地あるに 風雨 暑湿に当りし 蚕なり と云う 又は 蚕の乱性と云 又 雷雲 しきりに ふり来らば 急ぎ戸を さすべし 蚕のために 大毒にて是より 色々の病 と成 又 庭前

に 蚕の頭^{かしら} 俄^{にわか}に 赤色になり 桑喰ふ事
進^{おさな}ざるは 幼飼^{おさながい}の時に 暖^{あたたか}過^かし蚕 又
ハ 焼火^{たきび}の 火気^{あたり}に当^あしと するべし 又
蚕^{かいこ}起^{おこ}り上^ある時 衣^{きぬ}を ぬ^ぬぎ得^あざる蚕あり
是^こは 桑^{ごしらへ}の 拵^か 粗^あ末^{るい}なる 歟 或^{ある}は 木^いの
類^{きず}にても ま^やじりありて 蚕^{やまい}の背^いに 当^あり
し疵^{きず}より病^{やまい}出^いしと するべし…」

これら原文を現代文に読み替えると次のようである。

「1 眠^うのうちに体^みに白^うい節^みができて、ここから膿^うが出るような蚕^みは、最後の4 回目^うの眠^う起^みに悪^うい蚕^みになってしまう。この原因^うは寒^うさにやられたか、それとも暖^あかすぎて病^あ気^あにな^あった蚕^あである。1 齢^あ期^あの蚕^あ糞^あ蚕^あ沙^あを取り除^あく際^あに死^あんだ蚕^あがいたならば、これは障^あ子の隙^あ間^あから入^あった湿^あった風^あにあ^あったか、毒^あにあ^あった蚕^あと覚^あえてお^あけばよ^あい。2 回目^あの眠^あ起^あや3 回目^あの眠^あ起^あの時に、頭^あ部^あが細^あく食^あ欲^あのな^あい蚕^あが多^あく現^あれるのは、蜜^あな飼^あい方^あ（厚^あ飼^あい）をし^あているか、蚕^あ種^あが悪^あかったと覚^あえてお^あけばよ^あい。3 回目^あの眠^あ起^あのころに、萎^あ縮^あしたよ^あうな蚕^あが多^あく見^あられたならば、暑^あさにやられたと覚^あえてお^あけばよ^あい。また、『居^あしらず』とい^あう蚕^あの病^あ気^あがある。これ^あも飼^あ育^あする地^あ方^あによ^あって色^あ々な病^あ名^あで呼^あばれてい^ある。これ^あは飼^あ育^あ室^あの温^あ度^あ調^あ節^あの仕^あ方^あが悪^あく、冷^あ気^あや湿^あ気^あにあ^あた^あって多^あく発^あ生^あする。また、蚕^あ糞^あ蚕^あ沙^あ

に黴^{かび}が生^あえた時^あにも多^あ発^あすると覚^あえてお^あくことである。また、蚕^あが飼^あ育^あ容^あ器^あの縁^あに数^あ多^あく登^あることがあ^ある。これ^あは厚^あ飼^あいのため^あに蚕^あが少^あし弱^ありだ^あし、病^あ気^あにな^ありかけ^あてい^ある場合^あに、風^あ雨^あ、暑^あさ、湿^あ気^あにあ^あた^あたり^あすると現^あれる症^あ状^あとい^あえる。また、雷^あ雲^あが度^あ々^あある場合^あには、急^あいで戸^あを閉^あめな^あけれ^あばいけ^あない。雷^あ雨^あは蚕^あにと^あって大^あ変^あ有^あ害^あで、色^あ々な病^あ気^あの発^あ生^あ原^あ因^あにな^ある。また、最^あ後^あの4 眠^あ前^あに頭^あ部^あが急^あに赤^あくなり食^あ欲^あがな^あくなるのは、孵^あ化^あしたばかり^あの時^あに火^あなど^あで暖^あめ過^あぎた蚕^あか、焚^{たき}火^びの火^あ気^あにあ^あた^あった蚕^あと思^あえ^あばよ^あい。また、脱^あ皮^あの時^あ期^あに皮^あを脱^あぐこと^あのでき^あない蚕^あがい^ある。これ^あは、桑^あの刻^あみ方^あが粗^あ雑^あであ^あったか、木^あ類^あ等^あが桑^あに混^あ入^あして^あい^あて、蚕^あの背^あ中^あにあ^あた^あった傷^あによ^あって発^あ生^あした病^あ気^あである^あと覚^あえてお^あけばよ^あい…」

江戸時代は蚕病を引き起こす細菌やカビ、ウイルスなどについては全く分からない時代なので、発生原因は蚕種の良否をはじめ、蚕の飼育温湿度管理や飼育取り扱い、雷雨などに起因すると考えていた。しかし、蚕書に記述されている病状から、現在養蚕農家で発生しているような膿病や軟化病等が、すでに江戸時代に発生していたことが、おぼろげながら読み取れる。

その14 商標 MADE IN OCCUPIED JAPAN

わが国は1945（昭和20）年、敗戦によって連合国最高司令官総司令部（以下GHQという）の間接統治下に置かれていた。

GHQは日本政府に指令（覚書）を發し間接統治を押し進めた。

政府は戦後食糧事情が非常に悪かったので、桑園15万haを食糧生産に転換しようとしていた矢先、GHQは指止めし1945（昭和20）年10月11日付けで覚書「蚕糸製造に関する件」を發し、蚕糸業振興を命じた。その後も次々と覚書を發し具体的な振興策を打ち出してきた。

こうしたGHQの支配下にあって、1946（昭和21）年3月19日、米国船マリン・ファルコン号に食糧見返り物資として1,500俵の生糸を積み込んで戦後はじめて米国へ輸出した。

戦後の混乱する社会情勢の中であったが、繭や生糸の生産体制もだんだんと整えられ、軍需工場であった施設も製糸工場に復元され、復興へ向かって歩み出し始めた。

終戦後GHQの支配下にあったわが国からの生糸輸出には、ここに示した写真1～6のような生糸商標が生糸の括に添付され、海外へ渡っていった。各商標の下方には、小さな文字で「MADE IN OCCUPIED JAPAN」と印刷され占領日本製であることを表示した。これら商標はGHQの占領下に置かれた当時の歴史を今に伝える貴重な

資料である。

輸出用絹製品のスカーフにも、同様の英文タグ（写真7参照）がつけられて、海外へ渡っていった。

終戦直後の国内の製糸業を見ると、輸出用生糸を主に生産する器械製糸をはじめ、座繰器を動力化して国内用生糸の繰糸を行う国用製糸、従来からの座繰製糸、玉繭（2頭以上の蚕が一緒に作った繭）を用いた器械玉糸製糸、手回し玉糸製糸が各地で再び操業し出した。

器械製糸工場は1948～49（昭和23～24）年の両年には、1945（昭和20）年以降、平成に至る蚕糸統計上最高の301工場を数えるまでになった。国用製糸工場は1958（昭和33年）には1,000工場を越え、翌年には1,227工場、座繰製糸工場は1952（昭和27）年に2,553工場、器械玉糸製糸工場は1953（昭和28）年に268工場、手回し玉糸製糸工場も同年に123工場となり、いずれも戦後の蚕糸統計上最高の工場数になった。

戦後の生糸生産量の大部分は器械製糸であったが、この中でも多条繰糸機が中心になって生産されていた。多条繰糸機は1953（昭和28）年に自動繰糸機の実用化が始まると、だんだんと減少しだし、昭和30年代半ばには、自動繰糸機の時代へと切り替わっていった。

戦後の製糸業はこのように復興していったが、GHQの支配下にあった時代のわが国は、生糸や玉糸には「MADE IN OCCUPIED JAPAN」と印刷あるいはスタンプ押印した商標を付けて輸出を行っていた。

ここに例示した生糸商標やスカーフのタグは、占領下に置かれた時代の輸出品の様子を今に伝えているが、現代の目まぐるしい潮流の中で忘れ去られようとしている。



写真1
鐘ヶ淵蚕糸株式会社



写真2
後藤製糸場

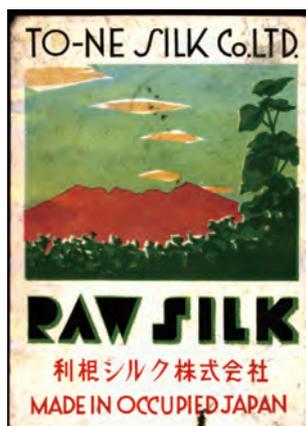


写真3
利根シルク株式会社

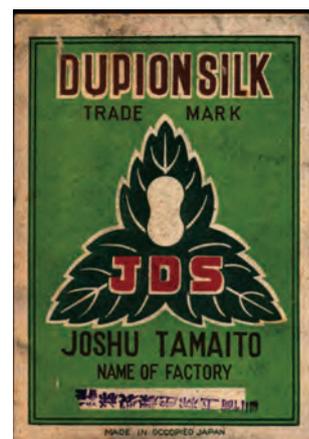


写真4
前橋玉糸座繰製糸所



写真5
味沢蚕糸工業 KK

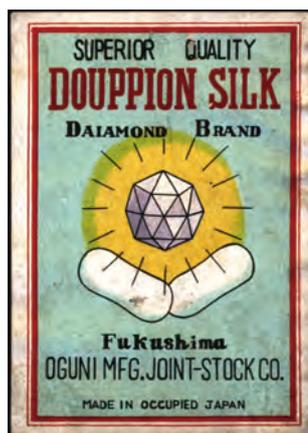


写真6
小国蚕糸興業 KK



写真7 スカーフ（シルク博物館所蔵）

（写真1～6は元農林水産消費安全技術センター本部横浜事務所旧蔵）

消毒の作法

—その3 消石灰の特長と使い方—

一般財団法人 大日本蚕糸会
蚕業技術研究所

主任研究員 野澤瑞佳

はじめに

今回から話題を少し掘り下げて、消毒作業で使用する消毒用資材（または消毒剤）の特長を詳しく取り上げておこうと思います。養蚕農家の皆さまが状況に応じて適切な消毒用資材を選択し、作柄の改善や向上に繋がれば幸いです。消毒の作法その3では、養蚕現場の消毒作業で中心的な役割を果たすことになる「消石灰」の特長と使い方について、これまでの復習を兼ねながら説明します。

消石灰の特長と対象病原

消石灰が各種ウイルスや一部の細菌に優れた消毒効果を示すことは古くから知られていました。カイコの分野では100年以上前から消石灰の有効性が実験的に検証されてきた経緯があります。また、畜産の分野では、病気が流行する前の予防的措置として、あるいは病気が目立ち始めて全頭処分を行う際に消石灰が度々使用されています。最近では、豚コレラが発生した際に、豚舎とその周辺に真っ白になるほど消石灰の粉末（状況次第では高度さらし粉も併用）が散布されていた光景は記憶に新しいことかと思われれます。豚コレラのウイルス

は、エンベロープとよばれる脂質性の膜で覆われた(+)RNAウイルスの一種であるため、塩化ベンザルコニウム（第四級アンモニウム塩）などの逆性石鹼や、エタノールでも消毒可能なウイルスです。今年流行したインフルエンザウイルスもエンベロープをもつ(-)RNAウイルスなので、豚コレラのウイルス同様、世間で一般的に知られている消毒剤で不活化可能です。ところが、カイコに感染する昆虫ウイルスは大変曲者で、エンベロープを持たないウイルス（伝染性軟化病ウイルスと濃核病ウイルス1型、2型）か、多角体とよばれるタンパク質の結晶中にウイルス粒子が包埋されるタイプのウイルス（核多角体病ウイルスと細胞質多角体病ウイルス）なので、逆性石鹼やエタノールの類ではこれらのウイルスを不活化（感染性が失われた状態に）することができません。この厄介なウイルスを消石灰ならば消毒できるのです。ただし、消石灰には致命的な欠点があり、カイコに感染するコウジカビや硬化病菌に対しては全く消毒効果がありません。また、カイコの卒倒病菌のように芽胞を形成する細菌に対しては消毒効果が大変低いと報告されてい

ます。これらの不備を補う消毒手段として「養蚕用除菌洗淨剤」も開発されていますので、消石灰の飽和液で飼育関連施設を消毒後、洗淨作業も兼ねて「養蚕用除菌洗淨剤」を併用することで、カイコに感染する病原体をほぼ全て消毒することが可能となります。

消石灰粉末の消毒効果

度々、養蚕農家の方々から消石灰粉末の消毒効果について尋ねられることがあります。蚕業技術研究所では、消石灰の飽和液を調製して上澄みで使用することを推奨してきましたが、作るのが面倒なため消石灰の粉末を蚕室や上簇室に散布して消毒効果を期待したいとのことでした。すでに述べたようにカイコに感染するウイルスは、エンベロープを持たないウイルスか、多角体に包埋されたウイルスなので、消石灰の粉末では消毒効果が得られにくいと考えられます。以前、予備試験として、桑の葉に核多角体病ウイルスの多角体を塗布し、葉の表面を軽く乾燥後、消石灰の粉末を葉の全面にまぶして30分程度置いたのち、消石灰の粉末を落としてからカイコの幼虫に与えたところ、供試したカイコはその後すべて発病してしまいました。畜産の分野でも、消石灰の粉末に消毒効果の疑念を抱いた研究者が、サルモネラ菌の一種 *Salmonella* Typhimurium を用いて確認試験を行ったところ、消石灰の粉末には明瞭な殺菌効果が無く、消石灰乳に浸漬した場合にのみ消毒効果が認められました。確実な消毒効果を

得るためには、対象病原に消毒効果が得られる濃度で消石灰の飽和液を調製し、消毒作業に用いることが必要です。

消石灰飽和液の作り方と消毒作業の実際

消毒の作法その1（2018年4月号 No.57 掲載）で飽和液の作り方を紹介しましたが、もう一度復習しておきます。消毒作業に使用する液量は、1平方メートルあたり1Lが基準です。この散布量は、ホルマリン水溶液を散布していた頃と同じ液量です。散布する液量を求めたら、液量1リットルあたり5グラムの消石灰粉末（アルカリ度70%）を水で溶かします。例えば、飼育関連施設に散布する液量が500リットルの場合には、消石灰の粉末が2.5キログラム必要です。消石灰飽和液を調製する容器（ローリタンクやポリ容器など）には目盛があると便利です。消石灰飽和液を調製してから約10分程度でpH13の強アルカリ水溶液になります。多角体に包埋された核多角体病（膿病）ウイルスや細胞質多角体病ウイルスに確実な消毒効果を得るためには、pH12.3以上の強アルカリであることが必要です。調製した消石灰飽和液が目的のpHに達しているか、リトマス試験紙やpHメーターで確認できると安心です（最近では、ネット通販でもリトマス試験紙や簡易測定型のpHメーターが安く販売されていますので自前で調達することができます）。

消毒作業に飽和液の上澄み液を使用する場合には、前日に調製して一晩置くと上清

が得られます。飽和液を消石灰乳で散布する場合には、散布する 10 分前に飽和液を調製しておけば、目的の pH に達した消石灰乳が得られます。散布に使用する動力噴霧機は、畜産分野でも使用されている消石灰対応型のものであれば安心ですが、手持ちの動力噴霧機が消石灰に対応しているか不明な場合には、メーカーを確認してから使用するほうがよいでしょう。

消石灰飽和液で消毒作業を行う時は、保護メガネ、フード付きのカップの上下、長靴、ゴム手袋、マスクを着用して下さい。飽和液が目に入ると失明する恐れがあります。また、飽和液が皮膚につくと、人によっては炎症やかぶれを生じることがあります。消毒作業の準備を終えたら、飼育関連施設全域を洗い流すように散布します。散布する箇所は床面だけでなく、天井や壁面まで洗い流すように散布して下さい。飽和液の散布が終了したら 30 分程度おき、消石灰飽和液の消毒効果を発揮させてから、洗浄作業を行います。洗浄作業に用いる液量は、飽和液の散布に要した量と同程度でよいですが、飽和液の散布後に液の汚れが目立つ場合には、液量を多めにして洗浄作業を行います。

硬化病対策としての利用性

硬化病菌の感染予防剤として、過去には有機水銀系のセレスン石灰やパラホルムアルデヒド系のパフソール剤などが蚕体消毒剤として使用されてきましたが、現在これらに代わる蚕体消毒剤は市販されていませ

ん。過去に使用されてきたクライト石灰(次亜塩素酸カルシウムを 5%ほど含有した石灰粉末)を自前で調製して利用できれば良いのですが、金属に対する腐食性の強さや普及上の課題があるため、養蚕農家に推奨できない状況にあります。そのため、起蚕に散布する蚕体消毒剤が何も使えない状況にあります。養蚕農家の現場では従来からカイコの停食時に消石灰の粉末を散布して蚕座の乾燥を行っていますので、この方法を起蚕時にも行うことで、蚕体消毒剤がねらっていた 2 次的な感染予防効果(カイコの体表に消石灰の粉末を付着させることで硬化病菌の胞子の発芽と侵入を阻止する効果)を保つことも必要です。補足になりますが、晩秋蚕期以降に発生しやすい硬化病への対策は、スケバハゴロモやアメリカシロヒトリなどを対象とした桑園の害虫管理が基本です。最近、硬化病が多発しやすい傾向にありますので、硬化病が発生しやすい養蚕地域では対象害虫の防除適期(茨城では 8 月上旬ごろ)にエルサン乳剤やディプテックス乳剤を散布して害虫管理に努めることが大切です。

おわりに

消石灰の特長と使い方について、お伝えしたいことをいろいろと書きました。消石灰は、消毒用資材の中で最も安価であり、入手も容易なため、養蚕分野の消毒作業では積極的に利用していきたい消毒用資材のひとつです。このシルクレポートの記事を読まれた養蚕農家の皆さまが消石灰の使い

方を各自で検証し、これまで以上に効果的な利用ができれば幸いです。春の養蚕シーズンが始まる前に、消石灰による養蚕関連施設の消毒作業を実践していただき、昨年以上により良い繭がとれることを期待して、消毒の作法その3を終わります。

参考文献：

柏村鶴雄・荒武義信（1977）消石灰乳の蚕病病原に対する不活化効果について．蚕糸研究 102: 45-53.

横関正直（2015）石灰による踏み込み消毒および畜鶏舎床面・壁面消毒の効果の実験的検討．畜産の研究 69：113-115.

■問い合わせ先：

一般財団法人大日本蚕糸会

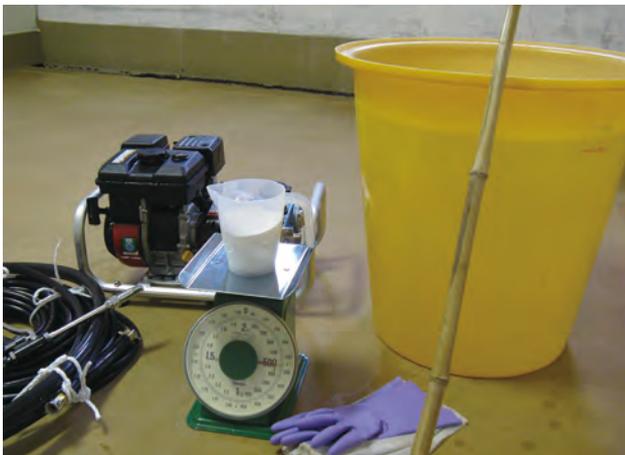
蚕業技術研究所

〒 300-0324

茨城県稲敷郡阿見町飯倉 1053 番地

TEL：029-889-1771

FAX：029-889-2356



散布作業に使うもの



作業時の服装



消石灰対応型小型動力噴霧機



散布作業の様子

歴史に学び、未来を思考・創造する 岡谷蚕糸博物館 —シルクファクトおかや—

館長 高林千幸

はじめに

岡谷蚕糸博物館は、明治初期からの製糸機械類や資料を時代的背景に基づき展示する蚕糸に関する貴重な博物館として、昭和39年に開館しました。以来、全国から多くの皆様にご来館頂き、わが国の近代化の礎を築いた製糸業の姿と先人の偉業を感じて頂いています。また、カイコ・繭・糸づくりに始まるシルク全般に触れる学習の場としても利用頂いてきました。

そして、博物館が開館して50年の節目の平成26年8月1日に、岡谷市郷田の（独）農業生物資源研究所生活資材開発ユニットの旧施設を大幅に改装し、岡谷蚕糸博物館としてリニューアルオープンしました（写真1）。

博物館は、大きく次に示すエリアから成っています。

1. 博物館エリア

博物館エリアでは、世界のシルク産業の歴史から始まりわが国の製糸業の全容をご覧頂いています。牛首・座繰り・諏訪式繰糸機・多条繰糸機・自動繰糸機に至るまでの150年の技術変遷と、その間の卓越した先人の発想力と開発力による製糸技術のあゆみを一堂に展示しています（写真2）。なかでも明治5年、富岡製糸場がフランス



写真1 岡谷蚕糸博物館へのアプローチ



写真2 岡谷蚕糸博物館の常設展示
繰糸機械の変遷

から輸入した繰糸機は、現存する世界唯一の大変貴重なものです。

企画展示エリアでは、年4～5回テーマを変えた展示を行っています。これまで「桂由美ブライダルファッション展」「市田ひろみの世界の旅展」「昭和の絹製品展」「糸を組む」「岡谷の工女さん」「吉岡幸雄の世

界」「鍋、語る」「皇室のご養蚕」「中国の古代復元絹織物」など、リニューアル後22回に亘る企画展を行ってきました。

2. 動態展示エリア（製糸工場を併設）

動態展示エリアは、併設する（株）宮坂製糸所で、実際に繭を煮て糸繰りを行っている上州式・諏訪式・多条・自動繰糸・太織度・極細織度等の各種繰糸機等の稼動状態を目の前で見ることができます。工場の中では繭を煮る臭いまで感じられ、来館者からは「なつかしい。糸を繰る様子がよくわかりました」などの言葉を頂いています（写真3）。



写真3 動態展示エリアの多条繰糸機（左）と自動繰糸機（右）

3. ワークショップ・カイコ学習エリア

ワークショップエリアは、まゆ工作・簡易織物・染色などを行うスペースで、土日には各種ワークショップを開催し、大勢のお客様に楽しんで頂いています。

また、当館では、未来を担う子ども達への「カイコ学習」として、園児や小中学生へのカイコの配布や飼育指導を行い、総合的な学習への展開など、この地方ならではの活動を行っています（写真4）。



写真4 カイコ学習

おわりに

以上述べたように岡谷蚕糸博物館は、博物館内に製糸工場（Factory）を併設する世界に類のない博物館として、製糸業の真実・事実（Fact）を伝えていきたいということから、その愛称を「シルクファクトおかや」としました。展示・見学はもとより体験・学習活動を充実させ、わが国の製糸業の歴史を学ぶ施設として、また岡谷の観光の拠点として「シルク岡谷」を発信していきたいと思っています。

『未来のものづくりを考えるならば、先ず先人の英知と涙ぐましい努力をこの博物館で肌で感じて頂きたい』、これが私たちの願いです。

■問い合わせ先：

岡谷蚕糸博物館 シルクファクトおかや
〒394-0021

長野県岡谷市郷田 1-4-8

TEL：0266-23-3489

FAX：0266-22-3675

E-mail:hakubutsukan@city.okaya.1g.jp

●シルク博物館 開館 60 周年記念所蔵名品展

「シルクのシンフォニー ～^{そめ}染と^{ししゅう}刺繡のかがやき～」

シルク博物館は 1959 年に開館し、今年 2019 年に 60 周年をむかえました。その間、絹の普及や需要増進を目的に、江戸時代の小袖、人間国宝作家の作品等、様々なシルク製品の収集公開に努めてきました。

本展では、この中から、高度な技術による染や刺繡の人間国宝作家作品、掛袷紗、花嫁衣装などの逸品を紹介し、あらためて絹への興味と理解を深め、シルクのかがやきを楽しんでいただきたいと思います。

〈会期〉平成 31 年 4 月 27 日（土）～ 6 月 2 日（日） 9:30～17:00（入館は 16:30 迄）

休館日：5 月 7 日（火）・13 日（月）・20 日（月）・27 日（月）

6/3（月）～7/12（金）は工事のため休館

12/28～1/4 *臨時休館あり

〈主催〉シルク博物館

〈会場〉シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町 1 番地

Tel: 045-641-0841

●駒ヶ根シルクミュージアム 第 50 回特別展「2019 まゆクラフト作品展」

今回で12回目を数えます。

繭を主素材とする手工芸は、材料の入手が難しいこと愛好家グループが中心となっており、すそ野がなかなか広がらない現状です。今後もグループ間の交流は勿論ですが、私どもの知らないグループを探すため、また、作品展がいつそう話題となるよう常田館（上田市）のご協力作品を巡回することになりました。

本展は、まゆの自然な造形美・質感を活かした独創性のあるまゆクラフト作品の制作技術の向上を図るとともに、全国愛好者の集いの場となることを目的に開催します。

〈会期〉平成 31 年 4 月 11 日（木）～ 5 月 14 日（火） 9:00～17:00（入館は 16:30 迄）

休館日：毎週水曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始

〈主催〉駒ヶ根シルクミュージアム

〈会場〉駒ヶ根シルクミュージアム 〒399-4321 長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地

Tel: 0265-82-8381

常田館巡回展

〈会期〉平成 31 年 5 月 20 日（月）～ 6 月 9 日（日） 10:00～16:00（入館は 15:30 迄）

休館日：無休

〈会場〉常田館製絲場 〒386-0018 長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業(株)内

Tel: 0268-26-7005

●日本絹の里 第43回企画展「草乃しずか日本刺繍展 ～煌く絹糸の旋律～」

刺繍は飛鳥時代に仏教の伝来とともに日本に伝わりました。日本刺繍は布地に仏像などを表す「繡仏」に始まり、着物や帯など衣装の装飾として多く用いられるようになり、長い時をかけて日本の風土で洗練され、装飾性を増していきます。現在では服飾文化の垣根を越えて工芸・芸術の分野でも優れた作品が発表されるようになりました。

日本刺繍作家・草乃しずかさんは、情感あふれる豊かな色彩表現で多くの作品を発表し、人々を魅了しています。本展では、日本の伝統模様を刺繍した作品や、歴史に残る女性をテーマにドラマチックに刺繍した振袖の作品などを展示し、日本刺繍の繊細な美しさと絹糸の持つ無限の魅力を紹介します。

〈会期〉平成31年4月12日（金）～6月3日（月）9:30～17:00

休館日：毎週火曜日（4月30日は開館）

〈主催〉群馬県立日本絹の里

〈会場〉群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古888-1

Tel: 027-360-6300

〈関連イベント・ワークショップ〉

「ギャラリートーク（展示品解説）」

日程：①4月12日（金）、②4月21日（日）、③5月18日（土）

時間：11:30～12:00

講師：草乃しずか

内容：展示会場内を移動しながら解説します。

費用：無料（高校生以上は観覧料が必要）

申込：予約不要

日本刺繍ワークショップ「猫のコンパクトミラー」

4月12日（金）、21日（日）、5月18日（土）に〈アトリエ草乃しずか〉講師によるワークショップ（コンパクトミラーのふたに猫の図柄を刺繍します。）が開催されます。

参加費・申込方法など詳細は、日本絹の里「日本刺繍ワークショップ」係にお問い合わせ下さい。

無料体験「紙刺繍のメッセージカード」

4月28日（日）、5月5日（日・祝）、11日（土）、26日（日）には、小学生以上を対象に絹糸で厚紙にメッセージを縫い込み、贈り物に添えられるカードを作ります。

時間：10:00～12:00、13:30～15:30 [所要時間：約30分]

持ち物：なし

費用：無料（高校生以上は観覧料が必要）

定員：各回20名（先着順）

申込：予約不要、当日各回30分前より受付

詳細は、日本絹の里にお問い合わせ下さい。

●岡谷蚕糸博物館 2019 シルクフェア in おかや

岡谷市では、毎年4月29日を“シルクの日”としてシルクフェアを開催しています。明治から昭和初期まで日本の近代産業の礎を築いた製糸業の中で、その中核を担った「シルク岡谷」の歴史を未来に受け継いでいこうと、シルクを五感で味わい、体験するイベントを各会場で行います。

〈日時〉平成31年4月29日（月・祝） 9:00～16:00

〈会場〉岡谷蚕糸博物館ほか 〒394-0021 長野県岡谷市郷田 1-4-8 Tel0266-23-3489

〈主催〉シルクフェア実行委員会（事務局：岡谷蚕糸博物館内）

詳細は、シルクフェア実行委員会にお問い合わせ下さい。

●岡谷蚕糸博物館 企画展「挑戦する繊維」

シルクはなぜ美しいか。他の繊維と原料や製法を比較しながら、その秘密に迫ります。化学繊維の原点とも言える19世紀末の「シャルドネ人絹」（東京農工大学科学博物館蔵）も展示します。

〈会期〉2019年4月18日（木）～6月23日（日） 9:00～17:00

休館日：水曜日・祝日の翌日、12/27～1/3 その他臨時休館あり

〈主催〉岡谷蚕糸博物館 シルクファクトおかや

〈会場〉岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田 1-4-8

Tel: 0266-23-3489

E-mail: hakubutsukan@city.okaya.lg.jp

●岡谷蚕糸博物館 企画展「信州の作家展 M²+K²」

長野県地域の染織作家にスポットを当てる企画展示。第一弾は「素材・手のぬくもりへのこだわり」「新しいテキスタイルの魅力」を追及し活動する染織プロジェクト「M²+K²」の作品を紹介します。

〈会期〉2019年6月27日（木）～7月28日（日） 9:00～17:00

休館日：水曜日・祝日の翌日、12/27～1/3 その他臨時休館あり

〈主催〉岡谷蚕糸博物館 シルクファクトおかや

〈会場〉岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田 1-4-8

Tel: 0266-23-3489

E-mail: hakubutsukan@city.okaya.lg.jp

「カイコの実験単」(日本蚕糸学会監修) 発刊

高校や大学で習う生物学の多くの単元はカイコを使って実験できますが、手頃な実験書がありませんでした。この本ではカイコを使ったさまざまな実験が紹介されており、生命科学をまるごと理解することを目指しています。また本書では、カイコをめぐる最新の研究成果、産業、さらに文化についてのコラムも掲載しており、カイコについて初心者の人からより深く知りたい人に必読の書となるでしょう。

生物の授業やクラブ活動で使える実験集

『生物の科学 遺伝』別冊 No.23

カイコの 実験単

監修：日本蚕糸学会

A5版 304ページ
全ページ・フルカラー

定価：2,000円 + 税

NTS

カイコで生命科学をまるごと理解！



カイコの卵から幼虫・蛹・成虫の観察・実験方法を解説

<ul style="list-style-type: none"> 実験 1 カイコの生活環と飼育 実験 2 カイコの病徴とその観察 実験 3 カイコの外部形態と繭糸の観察 実験 4 カイコの内部形態の観察 実験 5 カイコの受精卵の作製 実験 6 カイコの繭糸の構造と繭糸細胞の細胞とタンパク質の観察 実験 7 カイコの培養細胞の継代と増殖 実験 8 カイコ消化液のアミラーゼの実験 実験 9 カイコ中腸のトレハラーゼの実験 実験 10 カイコの血液タンパク質の電気泳動 実験 11 クワとカイコの糞のペーパークロマトグラフィー 実験 12 カイコ繭糸腺からのDNAとRNAの抽出 実験 13 データベースを利用したカイコのもつ遺伝子の相同性検索と分子系統樹の作成 実験 14 PCR法によるシルク遺伝子の発現の解析 実験 15 カイコの培養細胞の遺伝子発現・細胞小器官を可視化する 実験 16 カイコのさまざまな突然変異体の観察 実験 17 RNA干渉によるカイコのもつ遺伝子のノックダウン実験 実験 18 カイコの斑紋と藍色におけるメンデルの法則と連鎖 実験 19 カイコの性と性染色体 	<ul style="list-style-type: none"> 実験 20 カイコの配子観察 実験 21 カイコの精巣を用いた染色体と細胞分裂の観察 実験 22 カイコの胚の観察 実験 23 カイコのホメオティック変異体の観察 実験 24 薬剤投与によるカイコの背新腎の観察 実験 25 カイコのもつホルモンの実験 実験 26 カイコの培養細胞を用いたアポトーシスの誘導 実験 27 大腸菌接種とカイコ血液の抗菌活性 実験 28 カイコの血球細胞とノジュール形成反応 実験 29 カイコ血液のフェニル酸化酵素と生体防御 実験 30 カイコの食性とクワへの毒性実験 実験 31 カイコの性フェロモンの実験 実験 32 カイコの飼育環境条件と成長曲線 実験 33 カイコの体脂肪と卵中に含まれる糖と色素の分析 実験 34 野蚕の生態観察 <p>糸繰り・テグスの作製・繭工作 カイコ繭の加工と産業利用 遺伝子組換えカイコの作出と産業利用 次世代シーケンサーとカイコのゲノム研究 昆虫の病原体の利用と昆虫工場 その他コラム多数</p>
--	---

高校や大学で習う生物学を「まるごと」カイコの実験から学びましょう！







発行所：(株) エヌ・ティー・エス (ISBN 978-4-86043-598-1)

A5版 304頁フルカラー (2019年3月29日発刊)

価格：2,000円 + 税

養蚕農家との情報交換会の概要

平成31年2月13日(水)に東京有楽町の蚕糸会館において「養蚕農家との情報交換会」が開催されたので、その概要を報告します。

(一財)大日本蚕糸会は、毎年の養蚕概況を調査するために、繭生産規模、年齢、地域性等を考慮して25戸の養蚕農家に調査を依頼していますが、その対象農家(参加者17戸)が一堂に会して、生の声を通して意見・情報の交換、交流を行いました。

会の冒頭、小林会頭から、蚕糸振興対策の今後のあり方検討、遺伝子組換え等の新しい技術の展開を進めていく必要があると挨拶がありました。農林水産省からは、平成31年度の事業概要の説明がありました。

意見・情報交換会では、蚕業技術研究所から事前質問に基づく桑園管理対策、奇形繭の発生原因とその対策、高温対応蚕品種の開発状況について回答がありました。意見交換では、テーマ毎に「農薬被害」、「高温対策」、「今後の養蚕継続条件(後継者対策)」について、野菜の除草剤の散布に関する情報の提供、高温時における空調対応についての効果と経費、新規養蚕農家の開始条件等について活発な議論が行われました。

交流会には、ほぼ全員が参加し、時間の許す限り本日の課題を中心として意見を交わすとともに各農家の技術交換等交流を深めました。

*意見・情報交換会での配布資料は、弊会ホームページに掲載しています。

ホームページ：<http://www.silk-teikei.jp>

平成 30 年度第 4 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの平成 30 年度第 4 次審査委員会を平成 31 年 2 月 25 日（月）に開催しました。今回の申請は 9 者で、使用許諾されている 9 者のうち製品の追加 1 者 1 品目、履歴の追加 4 者 8 品目、数量の追加 7 者 32 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、9 者 41 品目に対し、3 月 4 日（月）付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(製品の追加) 大門屋 代表者名：高橋弘直 (担当者：高橋弘直) 〒 912-0081 福井県大野市元町 9-22 TEL：0779-66-2185 表示者登録番号 128	白生地着尺 (信州紬)	18 反	蚕品種 玉小石 繭生産 杉本英夫 製系 (株) 宮坂製糸所 製織 (株) ひろせ
(株) 千總 代表者名：仲田保司 (担当者：北川義久) 〒 604-8166 京都市中京区三条通烏丸西入御倉町 80 TEL：075-211-2531 表示者登録番号 001	(数量の追加) ①後染反物(振袖)	243 反	繭生産 福島県内養蚕農家 製系 松岡(株) 製織 (株) 竹林 染色加工 自社
	(数量の追加) ②後染反物(振袖)	70 反	
	(数量の追加) ③後染反物 (訪問着・付下)	40 反	
	(数量の追加) ④後染反物 (訪問着・付下)	135 反	繭生産 山形県内養蚕農家 製系 松岡(株) 製織 田勇機業(株) 染色加工 自社
	(履歴の追加) ⑤後染反物 (訪問着・付下)	45 反	繭生産 岩手県・山形県内養蚕農家 製系 松岡(株) 製織 美雲織物(株) 染色加工 自社
	(履歴の追加) ⑥後染反物 (色無地)	60 反	
	(数量の追加) ⑦後染反物 (黒留袖)	70 反	繭生産 福島県・山形県内養蚕農家 製系 松岡(株) 製織 河藤(株) 染色加工 自社
	(数量の追加) ⑧後染反物 (訪問着・付下)	70 反	
	(数量の追加) ⑨後染反物(振袖)	39 反	繭生産 宮城県内養蚕農家 製系 松岡(株) 製織 美雲織物(株) 染色加工 自社

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(株) 千總の続き	(履歴の追加) ⑩後染反物(振袖)	84 反	繭生産 福島県内養蚕農家 製 糸 松岡(株) 製 織 篠春織物(株) 染色加工 自社
	(履歴の追加) ⑪後染反物(振袖)	79 反	繭生産 岩手県内養蚕農家 製 糸 松岡(株) 製 織 篠春織物(株) 染色加工 自社
	(履歴の追加) ⑫後染反物 (色無地)	45 反	繭生産 岩手県・宮城県内養蚕農家 製 糸 松岡(株) 製 織 (株)竹林 染色加工 自社
(株) 伊と幸 代表者名：北川幸 (担当者：北川幸) 〒604-8176 京都市中京区御池通室町東入竜池町 448-2 TEL：075-211-2361 表示者登録番号 035	(数量の追加) ①白生地 (表地・色無地用 紋意匠)	14 反	繭生産 JA 前橋市・JA ひがしうわ管内 養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 生 糸 西予市野村シルク博物館 製 織 松岡姫・伊予生糸 篠春織物(株)
	(数量の追加) ②白生地(表地・ 訪問着付下)	13 反	企画販売 (株)アトリエ津室 蚕品種 松岡姫 繭生産 JA ふくしま未来管内養蚕農家 製 糸 松岡(株) 製 織 白数織物(有)
	(履歴の追加) ③白生地(表地・ 訪問着付下)	7 反	企画販売 (株)アトリエ津室 蚕品種 松岡姫 繭生産 JA 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 製 織 白数織物(有)
渡豊工房 代表者名：渡辺豊一 (担当者：渡辺豊一) 〒990-0301 山形県東村山郡山辺町大字山辺 892-1 TEL：023-664-5405 表示者登録番号 190	(数量の追加) ①裏地 (紬綾八掛)	150 枚	蚕品種 春嶺×鐘月 繭生産 JA みやぎ仙南管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 撚 糸 梅津撚糸工場 精練染色 佐米染色(有) 製 織 自工房
	(数量の追加) ②裏地 (紬駒八掛)	100 枚	蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 JA みやぎ仙南管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 撚 糸 梅津撚糸工場 精練染色 佐米染色(有) 製 織 自工房
	(履歴の追加) ③先染反物 (綾御召(男物))	47 枚	

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(履歴の追加) (有) 綵巧 代表者名：室門恒明 (担当者：室門耕一郎) 〒603-8322 京都市北区平野宮本町 85 番地 TEL：075-461-5394 表示者登録番号 231	先染反物（御召）	300 反	蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 JA おやま管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸（株） 染色 足利染工 製織 自社
(数量の追加) (株) 高島屋 代表者名：木本茂 (担当者：伊藤ゆ香) 〒542-8510 大阪市中央区難波 5-1-5 TEL：06-6631-1101 表示者登録番号 030	①後染反物（振袖）	20 反	繭生産 JA 那須南管内養蚕農家 製糸 松岡（株） 製織 美雲織物（株） 染色加工（株）千總
	②後染反物（振袖）	35 反	繭生産 JA 那須南管内養蚕農家 製糸 松岡（株） 製織（株）松浦絹織 染色加工（株）千總
(数量の変更) (株) 小倉商店 代表者名：小倉進吾 (担当者：小倉進吾) 〒307-0001 茨城県結城市大字結城 116 番地 TEL：0296-32-2121 表示者登録番号 041	①先染反物 （結城紬）	7 反	蚕品種 朝・日×東・海 繭生産 JA ふくしま未来管内養蚕農家 真綿生産（有）関根商店 手紬糸生産 自社 染織 自社
	②先染帯地 （結城紬）	35 本	
(数量の追加) (株) JS 代表者名：柏木秀基 (担当者：柏木秀基) 〒403-0003 山梨県富士吉田市大明見 6-2-3 TEL：0120-2236-39 表示者登録番号 159	28 年産繭		制作企画 (株) 山桜 繭生産 山梨県内養蚕農家 製糸 松澤製糸所 製織 (有) カシワギ 縫製 高野縫製所
	①絹スカーフ	10,000 枚	
	②絹ストール	100 枚	
	③絹シャツ	130 枚	
	④絹スカート地	10 枚	
	⑤絹コート地	10 枚	
	⑥絹ワンピース地	60 枚	
	⑦絹ネックカバー地	500 枚	
	⑧絹アームカバー地	300 枚	
	⑨絹レッグカバー地	100 枚	
	⑩絹布団	15 枚	
	⑪絹布団カバー	80 枚	
	29 年産繭		
	①絹スカーフ	10,000 枚	
②絹ストール	100 枚		
⑦絹ネックカバー地	500 枚		
⑧絹アームカバー地	300 枚		
⑨絹レッグカバー地	100 枚		

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(数量の追加) (株) ソーホー 代表者名：奥村尚司 (担当者：藤原浩充) 〒600-8357 京都市下京区猪熊通五条下る柿本町 606-1 TEL：075-353-8802 表示者登録番号 200	白生地 (表地)	30 反	蚕品種 春嶺×鐘月 繭生産 JA 高崎市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 織 戸田織物 精 練 丹後織物工業組合

次回の純国産絹マーク審査会の予定は次のとおりです。

純国産絹マークの使用許諾を申請される方は、事務局との事前協議を経た上で、下記の提出締切日までに、純国産絹マーク使用許諾申請書を提出してください。

次回審査会 平成 31 年度第 1 次：平成 31 年 5 月 24 日 (金) ～ 29 日 (水) 頃を目途に日程調整
3 月中旬頃 HP 上に掲載予定

純国産絹マーク使用許諾申請書の提出締切日：平成 31 年 4 月 25 日 (木)

一般財団法人 大日本蚕糸会

担当：岡島、廣瀬、小林

〒100-0006

東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

TEL：03-3214-3500 FAX：03-3214-3511

E-mail：岡島：aokajima@silk.or.jp

小林：kobaei@silk.or.jp

廣瀬：hirose_takato@silk.or.jp

一般財団法人大日本蚕糸会から

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 平成31年3月4日（H30-第4次）現在

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
001	(株) 千總	京都市中京区	後染反物（振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服）、胴裏
002	(株) 織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株) 丸上	東京都中央区	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）、後染帯地
005	(株) 坂本屋	茨城県土浦市	後染反物（色無地）、胴裏（灰汁浸け加工）
006	(有) 平原	福島県白河市	後染反物（色無地、黒紋付）
007	(株) 信盛堂	東京都清瀬市	後染反物（色無地、黒紋付）
008	(株) きものアイ	新潟県十日町市	後染反物（色無地）
009	(株) 上庵	岩手県北上市	後染反物（色無地、黒紋付）
010	(有) 樹（いづき）	秋田県横手市	後染反物（色無地、黒紋付）
011	(株) 銀座もとじ	東京都中央区	後染反物（作家作品）、後染帯地、先染反物（大島紬、結城紬、御召、作家作品）、先染帯地（織九寸帯、織角帯、作家作品）、白生地、和装小物（帯締、羽織紐）、八掛、胴裏
012	河瀬満織物（株）	京都市上京区	先染帯地
013	(有) 織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株) 結華	静岡県清水町	後染反物（色無地、黒紋付）
016	(株) 絹回廊	東京都中央区	後染反物（色無地）
017	(有) 琴路屋	岩手県釜石市	後染反物（色無地、黒紋付）
018	(有) 大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地、白生地（表地）
019	丸善本店	福島県いわき市	後染反物（色無地、黒紋付）、白生地（表地）
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物（色無地、黒紋付）
021	日本蚕糸絹業開発協同組合 （絹小沢（株））	群馬県高崎市	裏地（胴裏（ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま200、灰汁浸加工、トルマリン加工）、八掛、比翼地）、長襦袢地、後染反物（作家作品、紋付地）、白生地（世紀二一、上州絹星・ぐんま200、新小石丸）、後染帯地（（冬物・夏物）：うるし糸が5%を超えるもの）、寝衣（うぶ着、おくるみ）、和装小物（袱紗）
022	宮階織物（株）	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物（色無地、訪問着）、先染帯地（袋帯（草木染、唐織））
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物（有）	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地（袋帯、名古屋帯）、先染反物（御召類）、後染反物（色無地）、先染帯地（袋帯：金銀糸が5%を超えるもの）
027	(有) 織道楽塩野屋	京都府亀岡市	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウォーマー、腹巻、手袋、靴下））

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
028	(株) 丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物(江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地)、後染帯地、白生地(表地)
029	(株) むらかね	青森県八戸市	後染反物(色無地、黒紋付)
030	(株) 高島屋	大阪市中央区	後染反物(振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖)、白生地(長襦袢地、胴裏)、ニット(靴下)、風呂敷
031	(株) さが美	神奈川県平塚市	後染反物(黒紋付(冬用・夏用)、色無地)
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物(色無地、黒紋付)
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物(色無地、黒紋付)
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物(色無地、黒紋付、小紋)
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物(色無地、訪問着)、白生地(表地、胴裏、帯地)、白生地(表地(天蚕糸交織))、白生地(帯地(天蚕糸交織))、婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物(色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地(表地)
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物(色無地、黒紋付)
038	(株) 榎屋高尾	京都市北区	先染帯地(袋帯)
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物(色無地、黒紋付)、白生地(表地)
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物(色無地、黒紋付)
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物(結城紬)、先染帯地(結城紬)、白生地(結城紬)
042	染織家柳崇	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	染織家児玉京子	沖縄県竹富町	先染反物
044	草木染工房山村 山村多榮子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染帯地(金銀糸が5%を超える)、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、ストール
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物(紋紬、緋)、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音(株)	京都市中京区	後染反物(色無地(変三越、駒紬))
051	やまと(株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井(株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物(有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和(株)	京都市中京区	先染反物(結城紬)、先染帯地(結城紬)
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物(色無地、黒紋付)
058	浅山織物(株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地(金銀糸が5%を超えるもの)、白生地(加賀友禅用)、先染着尺(加賀友禅用)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
060	田中種 (株)	大阪市中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢、ネックウォーマー)、真綿布団、ハーフケット、布団カバー
061	(株) 京扇	東京都中央区	後染反物 (色無地)、胴裏 (パールトーン加工)
062	(株) なごみや	横浜市都筑区	後染反物 (色無地、黒紋付)
063	丸池藤井 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)、八掛
064	久保商事 (株)	京都市中京区	和装小物 (帯揚、半衿)
065	加賀グンゼ (株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋 (株)	京都市中京区	後染反物 (訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川 (株)	京都市下京区	和装小物 (帯締、帯揚)
068	第一衣料 (株)	東京都中央区	後染反物 (色無地)
069	(株) 紅輪	川崎市宮前区	後染反物 (色無地)
070	装いの道 (株)	東京都千代田区	白生地 (帯地、表地)、胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸)
071	(株) 高橋屋	岩手県一関市	胴裏 (灰汁浸加工)
072	おお又 (株)	大阪市旭区	胴裏 (灰汁浸加工)、ニット (靴下)
073	(株) 天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏 (ぐんま 200 (灰汁浸加工))、白生地 (表地)
074	(株) きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏 (パールトーン加工)
075	(株) とみひろ	山形県山形市	胴裏 (酵素精練)
076	(株) 細安	福井県福井市	胴裏 (酵素精練)
077	京和きもの (株)	神奈川県厚木市	胴裏 (酵素精練)
078	(株) まるため	長野県長野市	胴裏 (トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株) 小川屋	群馬県前橋市	胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株) エムラ	山口県防府市	胴裏 (酵素精練)
081	(株) 荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏 (酵素精練)
082	(株) 牛島屋	富山県富山市	胴裏 (酵素精練)、後染反物 (小紋)
083	(株) 谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏 (酵素精練)
084	(株) 登美屋	岩手県北上市	胴裏 (パールトーン加工)
085	(株) 川平屋	愛知県豊田市	胴裏 (パールトーン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
086	丸専第一衣料 (株) (丸専きもの)	新潟県長岡市	胴裏 (パールトーン加工)
087	(株) 大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地 (胴裏、比翼地 (振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール、ネクタイ
089	(株) あきやま	宮城県綾町	先染反物、洋装品 (ショール、マフラー)
090	藤井紋 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
093	(株) ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品 (スーツ地、ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、シャツ))
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、羽織紐 (男物、女物)
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)
100	京商 (株)	鳥取県米子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(株) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、縞九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
128	大門屋	福井県大野市	白生地（牛首紬）、後染帯地（牛首紬）、ショール（牛首紬）、先染反物（飯田紬）、白生地着尺（信州紬）
129	(株) 加藤萬	東京都中央区	和装小物（帯揚、半衿）
130	(株) しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物（小紋）
131	(資) 山中商店	名古屋市中区	後染反物（小紋）
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物（小紋）
133	西川産業(株)	東京都中央区	寝具寝装品（掛布団）
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣（長肌着、短肌着）
136	(株) 和想	鳥取県鳥取市	後染反物（小紋）
137	(株) 高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物（小紋）
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、禪、マフラー（手織り）
139	(株) 丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物（小紋）
140	(株) 染織館	徳島県徳島市	後染反物（小紋）
141	(株) 京ろまん	奈良県奈良市	後染反物（小紋）、ニット（靴下）
142	五嶋(株)	東京都文京区	帯締
143	(株) わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株) 布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏（トルマリン加工）、後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
145	(有) 明石屋	東京都調布市	後染反物（色無地）、後染帯地
146	宮井(株)	京都市中京区	風呂敷
147	(株) ナカノ	大分県大分市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠）、加賀友禅）
148	(株) 芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物（色無地、小紋（変一越、紋意匠））
149	(株) 甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品（スカーフ、ストール、トランクス）、パジャマ、袱紗
150	(有) さいとう呉服店	千葉県市川市	後染反物（色無地、付下）
151	(株) 西松屋	兵庫県姫路市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
152	(株) 西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
153	勝山織物(株)	京都市北区	先染帯地（金銀糸が5%を超えるもの）
154	(有) 石川	群馬県みどり市	後染反物（型友禅、羽二重色無地）、先染反物（ジャガード織）
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	(株) ふじや	福岡県朝倉市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物（小紋）
159	(株) J S	山梨県富士吉田市	寝具寝装品（ふとん、ふとんカバー）、洋装品（スーツ地、コート地、スカート地、シャツ、ワンピース地）、服飾品（スカーフ、ストール、ネックカバー、アームカバー、レグカバー）
160	(株) マルシバ	東京都中央区	裏地（胴裏）、和装小物（袱紗）、ネクタイ、帯地（白塩瀬）
161	(株) みつわ	大阪府大東市	後染反物（小紋）
162	福純織物(株)	福岡市西区	先染帯地（本袋男帯、八寸名古屋帯）

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地(表地)
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地(表地)
165	(株) 染織こうげい	東京都中央区	白生地(表地)
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品(布団、膝かけ)、ショール
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))、ニット(靴下)
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地(変り縮緬)、先染反物(大島紬)
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物(置賜紬)、ストール
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物(大島紬)、先染帯地(大島紬)
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地(八寸名古屋帯)
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット(腹巻、靴下)
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物(小紋(変一越))
182	京呉服好一(株)	京都市北区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏(パールトーン加工)
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物(小紋(変一越))
185	マテリアル ロープ 磨	東京都練馬区	後染反物(小紋(変一越))
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠)、訪問着)、先染反物(緋着尺)、後染帯地
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地(表地)、帯締、羽織紐、帯締(金銀糸が5%を超えるもの)、ジャケット地
188	青山きもの(株) (青山きもの学院)	東京都港区	白生地(表地、夏物表地)
189	ニット青木(株)	東京都品川区	ニット(スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー)
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物(綾御召(男物、女物)、市松綾御召(草木染め)、もじり織(草木染)、もじり織)、裏地(紬八掛)、先染ストール
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
192	(有) 新宮(きもの宮下)	宮崎県宮崎市	後染反物(小紋(変一越))
193	アトリエI T O 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	染織家 杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
197	(株) 嵯が野	埼玉県川越市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
198	(株) カインドウェア	東京都千代田区	ストール、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物 (ぼかし着尺)
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地 (紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬)、後染反物 (本加賀訪問着)、先染反物 (大島紬)、先染帯地 (袋帯)、先染反物 (御召)
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物 (訪問着・色無地)、白生地 (表地)
202	メーカーズシャツ鎌倉 (株)	神奈川県鎌倉市	ニット (肌着)
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地 (胴裏絹)
204	(株) 緒方商店 (きもの心おがた)	愛媛県八幡浜市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
205	富士新幸 (株)	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市右京区	後染反物 (色無地・藍染)
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地 (変一越)
208	(株) ADESSO (きもの工房一休)	神戸市中央区	白生地 (変一越)
209	森秀織物 (株)	群馬県桐生市	先染反物 (御召)
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地 (本袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
211	(株) 長沼 (長沼静きもの学院)	東京都渋谷区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
212	(株) 国際商事	東京都板橋区	ショール
213	窪田織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬)
214	染織家 村江菊絵	東京都目黒区	先染帯地 (作家作品)、先染反物
215	片倉工業 (株)	東京都中央区	ニット (靴下)
216	村田捺染加工 (有)	群馬県桐生市	ストール
217	(株) 京のきもの綾錦	京都市下京区	後染反物 (訪問着、小紋、色無地)
218	あや工房	沖縄県西原町	先染反物 (首里織)、先染帯地 (首里織)
219	Noble Silk (株)	東京都中央区	ニット (インナー、パンツ、ひざ掛け、ジャケット)
220	万兵 (株)	名古屋市中区	白生地 (表地)
221	横山 (株)	京都市中京区	後染反物 (小紋・訪問着)
222	(株) カネヒサクリエーション	石川県金沢市	白生地 (表地)
223	柳晋哉	東京都世田谷区	先染反物
224	(株) 一声	京都市下京区	白生地 (表地)
225	(株) ヤマノホールディングス きもの事業本部	東京都渋谷区	後染反物 (小紋・訪問着)
226	山口美術織物 (株)	京都市山科区	白生地 (表地)
227	(株) 大翻	名古屋市中区	セリシン靴下、セリシン手袋
228	(株) 中忠商店	京都市上京区	セリシン靴下、セリシン手袋
229	(株) 帛撰	京都市北区	先染帯地 (名古屋帯、袋帯 (金銀糸が5%を越えるもの))
230	(株) 京朋	京都市中京区	白生地 (表地)
231	(有) 綵巧	京都市北区	先染反物 (御召)、先染帯地 (名古屋帯 (組帯))

一般財団法人大日本蚕糸会活動日誌 No. 61 (H31.1.1 ~ H31.3.31)

月日	活 動 内 容 等
1/8	新年賀詞交歓会（東京都有楽町 蚕糸会館）
1/25	回転族及び小石丸生糸に関する打合せ（長野県）
2/4 ~ 8	純国産宝絹試作品展（東京都有楽町 蚕糸会館）
2/6	平成 30 年度福島県養蚕振興セミナーへの参加（福島県）
2/7	蚕種及び人工飼料に関する打合せ会議（東京都有楽町 蚕糸会館）
2/13	養蚕調査農家との情報交換会（東京都有楽町 蚕糸会館）
2/14	遺伝子組換え蚕利用促進打合せ会議（東京都有楽町 蚕糸会館）
2/14	農林水産省主催「遺伝子組換えカイコ（繊維系）の一般飼育に係る連絡会議」（東京都有楽町 蚕糸会館）
2/20 ~ 21	平成 30 年度群馬県内養蚕者情報交換会への参加（群馬県）
2/25	純国産絹マーク審査委員会（平成 30 年度第 4 次） （東京都有楽町 蚕糸会館）
3/13	第 2 回組換え蚕利用促進検討会（東京都有楽町 蚕糸会館）
3/20	大日本蚕糸会通常理事会（東京都有楽町 蚕糸会館）

蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
一般財団法人北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館 語り部の館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわたおりのもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
紬の里	307-0001	茨城県結城市結城 2515	0296-32-8002
本場結城紬郷土館	307-0000	茨城県結城市浦町 116	0296-32-2121
本場結城紬染織資料館「手緒里」	307-0001	茨城県結城市結城 12-2	0296-33-3111
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
おやま本場結城紬クラフト館	323-0023	栃木県小山市中央町 3-7-1 ロブレビル 1F	0285-32-6477
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3-2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1-2673-1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1（群馬の森公園内）	027-346-5522
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館“紫（ゆかり）”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-2211
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28-1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3-1	0494-23-7300
きもの芸術館（一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F～8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
蚕糸科学研究所展示室	169-0073	東京都新宿区百人町 3-25-1	03-3368-4891
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
八王子市郷土資料館	192-0902	東京都八王子市上野町 33	042-622-8939

名 称	〒	住 所	電 話
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
小千谷織物工房 小千谷織物同業協同組合	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25 小千谷市総合産業会館サンプラザ内	0258-83-2329
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 14	0257-82-4888
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3-15-1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館 (シルクファクトおかや)	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 24	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 - 1	0574-28-1110
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109 - 1	0532-52-5265
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34-1-1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静市市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業 (株) 内	0772-72-0307

名 称	〒	住 所	電 話
上垣守国（うえがきもりくに）養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製絲記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp>

【蚕糸絹業関係団体】

(一財) 大日本蚕糸会
(一財) 大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター
(一社) 日本絹人織織物工業会
(一財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
(公財) 京都和装産業振興財団
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://www.kinujinsen.com>
<http://www.mawata.or.jp>
<http://www.tanko.or.jp>
<http://www.nishijin.or.jp>
<http://www.tafs.or.jp>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougeihin.jp>
<http://takaraginu.com>

【大学・試験研究機関】

(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 <http://www.naro.affrc.go.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室 <http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html>
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース応用昆虫研究室 <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department2/agri/life.html>
(国) 宇都宮大学農学部昆虫機能利用学研究室
http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/insect_physiology/seiri-research
(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科蚕学研究室 <http://www.tuat.ac.jp/~kaiko>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科 <http://www.tuat.ac.jp/~seimei>
(国) 名古屋大学農学部 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 信州大学繊維学部 <http://www.tex.shinshu-u.ac.jp>
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程 <http://www.bio.kit.ac.jp>
(国) 鳥取大学農学部生物資源環境学科昆虫機能学教育研究分野 <http://muses.muses.tottori-u.ac.jp>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科 <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(国) 九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku>
群馬県蚕糸技術センター <http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>
群馬県繊維工業試験場 <http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html>
京都府織物・機械金属振興センター <http://www.pref.kyoto.jp/oriki>
(地独) 京都市産業技術研究所 <http://www.tc-kyoto.or.jp>
(公財) 衣笠繊維研究所 <http://krf-textile.com>
(一財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
(一財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

【学会】

日本シルク学会
(一社) 日本蚕糸学会
日本野蚕学会

<http://jssst.sakura.ne.jp>
<http://jsss.or.jp>
<http://jswsmo.appspot.com>

【博物館】

(一財) シルクセンター-国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkcenter-kbkk.jp/museum>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp>
<http://www.city.seiyo.ehime.jp/soshiki/silkmuseum>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum>

【博物館】

駒ヶ根シルクミュージアム
織成館（京都市上京区）
高崎市染料植物園
群馬県立歴史博物館
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）
はたや記念館ゆめおーれ勝山

<http://komagane-silk.com/>
<http://orinasukan.skr.jp>
<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/201401140097>
<http://grekisi.pref.gunma.jp>
<http://silkfact.jp>
<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>

【富岡製糸場と絹産業遺産群】

富岡製糸場
群馬県 企画部 世界遺産課
ぐんま絹遺産
上毛新聞社関連記事

<http://www.tomioka-silk.jp/hp/index.html>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/ja>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/kinuisan>
http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk_index.html

統計資料の年間掲載計画

＜国内＞	1月号	4月号	7月号	10月号
(1) 蚕糸絹業の概要	○	○	○	○
(2) 養蚕農家数	○	○	○	○
(3) 繭生産数量の推移	○	○	○	○
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数		○		
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量		○		
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移		○		
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	○	○	○	○
(8) 生糸の織度別生産数量の推移		○		○
(9) 絹需給の推移(生産量換算試算)	○	○	○	○
(10) 品目別・二次製品輸入数量(生糸量換算試算)		○		
(11) 製糸工場の原料繭需給	○	○	○	○
(12) 製糸工場の操業状況	○	○	○	○
(13) 生糸在庫数量の内訳	○	○	○	○
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況		○		
(15) 生糸の原産国別輸入数量		○		○
(16) 絹糸の原産国別輸入数量		○		○
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価		○		○
(18) 絹織物生産数量	○	○	○	○
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	○	○	○	○
＜海外＞				
(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	○	○	○	○
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量		○		
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量		○		
(4) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	○	○	○	○

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	48
(2) 養蚕農家数の推移	49
(3) 繭生産数量の推移	50
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	51
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	52
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	53
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	53
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	55
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	56
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	57
(11) 製糸工場の原料繭需給	58
(12) 製糸工場の操業状況	59
(13) 生糸在庫数量の内訳	60
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	61
(15) 生糸の原産国別輸入数量	62
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	63
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	64
(18) 絹織物生産数量	65
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	66

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	67
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	68
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量	69
(4) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	70

<お詫びと訂正>

シルクレポート No.60 2019年1月号（2019年1月1日発行）51頁、56頁と57頁の表に誤りがありました。
読者の皆様ならびに関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

(1) 蚕糸絹業の概要

		正	誤
2017 (29)	絹業（絹織物生産量）	2,195 千㎡	2,194 千㎡

(3) 繭生産数量の推移

		正	誤
2017	1戸当り集繭量（年間）	372 kg	370 kg

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

		正	誤
2018 — 9月	絹糸 輸出数量	46 俵	16 俵
2018 — 10月	絹糸 輸出数量	24 俵	16 俵

一資料・国内一

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
年次(暦年) Calendar year	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
(平成)								
2000 (12)	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 (13)	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 (14)	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 (15)	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 (16)	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 (17)	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 (18)	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 (19)	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 (20)	1,021	382	374	1.6	6	80	38.1	14,043
2009 (21)	915	327	357	1.2	6	60	33.6	9,955
2010 (22)	756	265	351	0.9	7	49	35.9	3,611
2011 (23)	627	220	351	0.7	7	52	34.7	3,152
2012 (24)	571	202	354	0.5	7	35	33.3	2,912
2013 (25)	486	168	346	0.4	9	31	32.0	2,940
2014 (26)	393	149	379	0.4	9	34	-	2,734
2015 (27)	368	135	367	0.4	8	30	-	2,316
2016 (28)	349	130	372	0.3	8	26	-	2,243
2017 (29)	336	125	372	0.3	8	28	-	2,195
2018 (30)	293	110	375	0.3	8	46	-	2,120
前年比(%) 2018/2017	87.2	88.0	100.9	100.0	100.0	164.3	-	96.6

資料 ・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。

- ・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(一財)大日本蚕糸会調査である。
- ・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査である。
- ・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は(一社)日本絹人織機物工業会調査である。
平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。
- ・平成23年以降の養蚕業は(一財)大日本蚕糸会調査である。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: ・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)
 ・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and the Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)
 ・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009)
 ・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)
 ・Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit：number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
2009		915	814	647	755
2010		756	650	494	637
2011		627	562	358	531
2012		571	514	319	462
2013		486	422	260	399
2014		393	359	230	328
2015		368	323	221	313
2016		349	310	209	310
2017		336	307	201	280
2018		293	254	179	262
前年比(%) 2018/2017		87.2	82.7	89.1	93.6

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005～2008年）（一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).

The Dainippon Silk Foundation (2009年～).

(3) 繭生産数量の推移 Cocoon Production

年次 Year	項目 Item	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
		年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
		t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
2000		1,244	500	320	424	379	169	148	157
2001		1,031	391	275	365	378	162	147	161
2002		880	330	231	320	373	166	134	167
2003		775	313	210	253	374	167	140	144
2004		675	256	176	243	369	158	128	157
2005		626	243	165	218	396	171	156	162
2006		505	209	122	173	375	172	143	157
2007		433	175	110	148	371	166	152	150
2008		382	147	96	139	374	158	157	162
2009		327	124	85	118	357	152	131	156
2010		265	107	60	98	351	165	121	154
2011		220	95	49	76	351	169	136	143
2012		202	79	50	73	354	155	156	159
2013		168	61	41	67	346	145	158	168
2014		149	55	36	58	379	153	157	176
2015		135	49	32	54	368	151	147	174
2016		130	47	32	50	372	153	155	162
2017		125	47	29	49	372	153	144	175
2018		110	41	24	46	375	161	134	176
前年比(%) 2018/2017		88.0	87.2	82.8	93.9	100.9	105.4	92.9	100.3
2018年 構成比(%)		100.0	37.3	21.8	41.8				

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005～2008年） （一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source: The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).

The Dainippon Silk Foundation (2009年～).

(4)蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures

(単位:戸、%)

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年間		
	29年	30年	前年対比	29年	30年	前年対比	29年	30年	前年対比	29年	30年	前年対比
青森県	1	1	100.0	1	2	200.0	1	1	100.0	2	2	100.0
岩手県	9	8	88.9	10	9	90.0	14	12	85.7	15	12	80.0
宮城県	12	8	66.7	10	7	70.0	7	11	157.1	15	12	80.0
山形県	6	5	83.3	3	3	100.0	6	5	83.3	7	6	85.7
福島県	38	29	76.3	38	33	86.8	40	34	85.0	44	39	88.6
茨城県	10	6	60.0	8	5	62.5	8	6	75.0	10	7	70.0
栃木県	22	21	95.5	16	16	100.0	20	21	105.0	22	21	95.5
群馬県	111	102	91.9	69	64	92.8	108	98	90.7	119	109	91.6
埼玉県	25	23	92.0	17	16	94.1	22	18	81.8	25	23	92.0
千葉県	7	6	85.7	5	4	80.0	6	6	100.0	7	6	85.7
東京都	3	3	100.0	-	-	-	3	4	133.3	3	4	133.3
山梨県	8	7	87.5	3	3	100.0	8	7	87.5	8	7	87.5
長野県	15	13	86.7	12	8	66.7	15	14	93.3	17	16	94.1
新潟県	8	-	-	1	-	-	-	-	-	8	-	-
福井県	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-
岐阜県	7	6	85.7	-	-	-	4	8	200.0	8	9	112.5
愛知県	2	2	100.0	-	-	-	-	1	-	2	2	100.0
兵庫県	1	1	100.0	-	-	-	1	-	-	1	1	100.0
愛媛県	11	8	72.7	5	6	120.0	10	9	90.0	12	10	83.3
高知県	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
熊本県	3	1	33.3	-	-	-	2	2	100.0	3	2	66.7
宮崎県	2	2	100.0	-	-	-	2	2	100.0	2	2	100.0
鹿児島県	4	2	50.0	3	3	100.0	2	3	150.0	4	3	75.0
全国計	307	254	82.7	201	179	89.1	280	262	93.6	336	293	87.2

資料:(一財)大日本蚕糸会

Source: The Dainippon Silk Foundation

(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量
Cocoon production by prefectures

(単位: kg、%)

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晚 秋 蚕 期			年間		
	29年	30年	前年比	29年	30年	前年比	29年	30年	前年比	29年	30年	前年比
青森県	70.4	66.7	94.7%	82.0	168.7	205.7%	70.0	43.0	61.4%	222.4	278.4	125.2%
岩手県	1,070.0	872.2	81.5%	1,517.7	1,144.2	75.4%	1,493.7	1,472.3	98.6%	4,081.4	3,488.7	85.5%
宮城県	1,118.4	1,105.1	98.8%	1,231.4	1,103.8	89.6%	1,526.2	1,526.1	100.0%	3,876.0	3,735.0	96.4%
山形県	1,197.3	1,096.7	91.6%	559.4	568.7	101.7%	1,310.0	1,315.5	100.4%	3,066.7	2,980.9	97.2%
福島県	6,800.6	5,315.0	78.2%	6,368.6	5,321.8	83.6%	8,156.4	7,905.9	96.9%	21,325.6	18,542.7	87.0%
茨城県	1,518.2	1,036.4	68.3%	1,013.3	693.5	68.4%	1,511.7	1,065.5	70.5%	4,043.2	2,795.4	69.1%
栃木県	6,570.9	6,175.7	94.0%	3,505.5	3,478.1	99.2%	7,828.0	7,402.3	94.6%	17,904.4	17,056.1	95.3%
群馬県	17,945.6	15,788.6	88.0%	9,887.1	7,714.3	78.0%	17,852.4	16,619.9	93.1%	45,685.1	40,122.8	87.8%
埼玉県	3,431.4	2,907.8	84.7%	1,572.8	1,379.0	87.7%	3,035.5	2,733.0	90.0%	8,039.7	7,019.8	87.3%
千葉県	950.7	729.6	76.7%	437.1	355.8	81.4%	720.3	645.1	89.6%	2,108.1	1,730.5	82.1%
東京都	105.5	159.7	151.4%	-	-	-	115.5	152.6	132.1%	221.0	312.3	141.3%
山梨県	2,127.4	1,788.3	84.1%	512.7	461.4	90.0%	1,908.0	1,553.5	81.4%	4,548.1	3,803.2	83.6%
長野県	1,456.6	1,424.4	97.8%	1,328.7	957.7	72.1%	1,569.0	1,418.7	90.4%	4,354.3	3,800.8	87.3%
新潟県	109.3	-	-	27.5	-	-	-	-	-	136.8	-	-
福井県	57.9	-	-	-	-	-	35.7	-	-	93.5	-	-
岐阜県	572.8	419.5	73.2%	-	-	-	200.5	339.5	169.3%	773.3	759.0	98.2%
愛知県	84.8	72.3	85.3%	-	-	-	-	4.4	-	84.8	76.7	90.4%
兵庫県	39.0	42.7	109.5%	-	-	-	39.0	-	-	78.0	42.7	54.7%
愛媛県	1,511.2	1,274.5	84.3%	1,199.8	709.0	59.1%	1,255.2	1,134.7	90.4%	3,966.2	3,118.2	78.6%
高知県	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	3.6	-	-
熊本県	102.2	58.3	57.0%	-	-	-	70.0	57.0	81.4%	172.2	115.3	67.0%
宮崎県	83.0	123.7	149.0%	-	-	-	84.4	81.3	96.3%	167.4	205.0	122.5%
鹿児島県	85.0	48.0	56.5%	95.0	31.0	32.6%	60.0	44.0	73.3%	240.0	123.0	51.3%
全国計	47,011.7	40,505.2	86.2%	29,338.6	24,087.0	82.1%	48,841.5	45,514.3	93.2%	125,191.8	110,106.5	88.0%

資料: (一財)大日本蚕糸会

Source: The Dainippon Silk Foundation

(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移

Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item	Year	2015年 (平成27年)		2016年 (平成28年)		2017年 (平成29年)		2018年 (平成30年)	
		箱 box	割合 rate %						
錦秋1号 × 鐘和1号		2,899	30.0	2,800	31.5	2,635	32.3	2,496	32.2
錦秋 × 鐘和		1,946	20.1	1,606	18.1	1,566	19.2	1,575	20.3
春嶺 × 鐘月		1,242	12.8	1,100	12.4	906	11.1	900	11.6
ぐんま 200		1,019	10.5	949	10.7	926	11.3	793	10.2
春嶺1号 × 鐘月1号		780	8.1	679	7.6	700	8.6	715	9.2
松岡 姫		300	3.1	445	5.0	275	3.4	272	3.5
新小石丸		107	1.1	178	2.0	143	1.8	138	1.8
緑繭 2号		22	0.2	39	0.4	120	1.5	106	1.4
かいりょう × あけぼの		136	1.4	133	1.5	94	1.2	89	1.1
改良小石丸		93	1.0	82	0.9	70	0.9	77	1.0
ぐんま 細		95	1.0	101	1.1	48	0.6	66	0.9
白麗		26	0.3	60	0.7	30	0.4	66	0.9
白繭 細 1号		39	0.4	59	0.7	79	1.0	57	0.7
ぐんま 黄金		116	1.2	59	0.7	55	0.7	56	0.7
プラチナボーイ		58	0.6	66	0.7	56	0.7	51	0.7
いろどり		134	1.4	52	0.6	40	0.5	46	0.6
大寶 × 黄金		41	0.4	55	0.6	45	0.6	45	0.6
蚕技研 11号		43	0.4	44	0.5	46	0.6	37	0.5
小石丸		180	1.9	96	1.1	85	1.0	29	0.4
朝日 × 東海		110	1.1	58	0.7	59	0.7	29	0.4
青熟 × C5・C6						27	0.3	26	0.3
MCS107 × セヴェンヌ白								18	0.2
玉小石丸		39	0.4	49	0.6	29	0.4	14	0.2
青熟 × 支 21号		8	0.1	2	0.0			11	0.1
上州 絹星				26	0.3	12	0.1	9	0.1
黄白		32	0.3	12	0.1	8	0.1	8	0.1
N5・N6 × TY40		8	0.1	12	0.1	8	0.1	8	0.1
奄美 黄金		4	0.0	15	0.2	10	0.1	6	0.1
青熟 × C5・505								6	0.1
秋光 × 竜白		11	0.1	26	0.3	12	0.1	3	0.0
太平 × 長安		43	0.4	42	0.5	9	0.1	1	0.0
世紀 二一		78	0.8	17	0.2	50	0.6		
山東3眠 × C5・507		33	0.3	10	0.1	14	0.2		
支 21号 × 四川3眠		4	0.0			5	0.1		
Ok・ON × nBL				10	0.1				
新青白		5	0.1	5	0.1				
極細 1号		11	0.1						
緑繭 1号		6	0.1						
合計 Total		9,668	100.0	8,887	100.0	8,162	100.0	7,753	100.0

資料: (一財)大日本蚕糸会

Source : The Dainippon Silk Foundation

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量 Production (A)	輸入数量 Imports (B)	輸出数量 Exports (C)	国内引渡 数量 Domestic Deliveries (D)	期末在庫 数量 Ending Stocks (E)	輸入数量 Imports (F)	輸出数量 Exports (G)	輸入数量 Imports (H)	輸出数量 Exports (I)
暦年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2010	882	12,207	595	13,220	3,329	16,306	324	8,930	6,302
2011	731	9,323	578	10,349	2,456	17,526	427	8,422	6,229
2012	506	10,032	419	10,274	2,180	16,179	320	7,218	5,545
2013	409	9,332	292	9,919	1,712	15,844	426	6,662	5,431
2014	446	8,235	14	8,726	1,653	14,820	330	6,098	5,125
2015	378	6,479	0	7,194	1,410	14,051	302	5,468	5,085
2016	317	6,548	0	6,869	1,406	12,094	177	5,207	4,940
2017	339	7,560	1	7,557	1,747	14,560	245	4,897	4,785
2018	339	5,038	1	5,793	1,330	11,092	5,785	4,151	4,854
2016 - 1	23	423	0	513	1,343	1,101	35	468	354
2	33	595	0	607	1,364	797	10	460	348
3	38	636	0	401	1,637	911	15	384	523
4	26	0	0	414	1,249	1,047	19	445	478
5	24	726	0	529	1,470	900	20	493	364
6	17	555	0	648	1,394	1,295	12	457	434
7	26	642	0	630	1,432	1,072	8	442	443
8	26	589	0	599	1,448	967	9	383	332
9	30	520	0	620	1,378	946	5	374	426
10	20	602	0	572	1,428	862	17	414	415
11	28	664	0	700	1,420	1,161	22	493	407
12	26	596	0	636	1,406	1,035	5	394	416
2017 - 1	23	552	0	534	1,447	1,314	7	522	249
2	23	509	0	479	1,500	535	35	203	454
3	23	805	1	693	1,634	1,376	21	456	469
4	26	0	0	122	1,538	1,255	23	371	437
5	36	997	0	1,021	1,550	1,389	14	466	411
6	26	735	0	773	1,538	1,285	17	499	410
7	24	437	0	515	1,484	960	18	388	441
8	25	839	0	799	1,549	1,443	9	391	355
9	35	664	0	543	1,705	1,259	12	395	381
10	31	700	0	725	1,711	815	36	321	389
11	34	760	0	783	1,722	1,542	20	522	399
12	33	561	0	569	1,747	1,388	34	360	390
2018 - 1	25	778	0	728	1,822	1,200	552	453	312
2	24	401	0	510	1,737	798	2,195	342	325
3	28	496	0	600	1,661	1,080	2,878	241	510
4	24	0	0	145	1,540	929	15	356	436
5	34	926	0	791	1,709	1,127	9	368	394
6	29	348	0	439	1,647	941	11	357	455
7	24	348	0	387	1,632	788	13	339	426
8	23	423	0	518	1,560	706	16	355	352
9	32	184	1	300	1,475	817	46	296	375
10	33	431	0	499	1,440	936	24	408	443
11	29	346	0	496	1,319	953	15	343	413
12	34	358	0	381	1,330	819	12	291	412
2019 - 1	25	382	0	382	1,355	855	18	486	362

資料：(A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局（～2010.3） 中央蚕糸協会及び日本生糸問屋協会（2010.4～2012.11）

中央蚕糸協会（2012.12～2018.10）（一財）大日本蚕糸会（2018.11～）(B) (F) (G) (H) (I) 財務省関税局

備考：1. 国内引渡数量(D)={前月在庫数量+(A)+(B)}-{(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

3. (D)と(E)は2012年11月までと同年12月以降調査方法が変更したため連続性はない。

Source：(A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

（～2010.3）、Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association（2010.4～2012.11）、

Central Raw Silk Association（2012.12～2018.10）、The Dainippon Silk Foundation（2018.11～）

(B) (F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries(D)={Stock at end of the previous month+(A)+(B)}-{(C)+(E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸の織度別生産数量の推移
Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					
	計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
暦 年 Calendar Year						
2010	882	1	179	316	86	300
2011	731	1	188	249	89	204
2012	506	0	109	202	73	82
2013	409	0	109	105	57	138
2014	446	0	114	116	62	155
2015	378	0	146	86	36	110
2016	317	0	98	103	38	78
2017	339	0	107	95	53	84
2018	339	0	106	104	65	63
2016 - 1	23	—	7	11	0	5
2	33	—	10	7	4	12
3	38	—	9	12	11	6
4	26	—	6	12	1	7
5	24	—	3	7	2	12
6	17	—	11	3	0	3
7	26	—	10	10	0	6
8	26	—	7	9	6	4
9	30	—	7	12	1	10
10	20	—	8	4	3	5
11	28	—	10	11	3	4
12	26	—	10	5	7	4
2017 - 1	23	—	5	8	4	6
2	23	—	13	3	0	7
3	23	—	6	12	0	5
4	26	—	9	10	0	7
5	36	—	9	7	10	10
6	26	—	8	6	4	8
7	24	—	10	2	3	9
8	25	—	11	7	1	6
9	35	—	11	13	3	8
10	31	—	9	4	13	5
11	34	—	7	8	10	9
12	33	—	9	15	5	4
2018 - 1	25	—	4	10	8	3
2	24	—	12	8	—	4
3	28	—	12	2	4	10
4	24	—	5	16	—	3
5	34	—	10	12	9	3
6	29	—	8	11	6	4
7	24	—	8	7	5	4
8	23	—	6	7	5	5
9	32	—	8	8	12	4
10	33	—	13	7	5	8
11	29	—	7	13	1	7
12	34	—	13	3	10	8
2019 - 1	25	—	11	0	8	6

資料：農林水産省生産局(～2010.3) 中央蚕糸協会(2010.4～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

備考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source: The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and

Fisheries(～2010.3). Central Raw Silk Association (2010.4～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

Remarks: Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位: 千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 暦年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生産 Produc- tion	輸入 Import					輸出 Export				内需 Domestic Demand ②-③				
			計 Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics	二次 The Second	計 ③ Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics		二次 The Second			
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	17	0	0	12	5	159	45
2016	239	45	0	194	7	12	14	161	194	15	0	0	9	6	179	45
2017	239	45	0	194	8	15	9	162	194	22	0	1	11	10	172	45
前年比 (%) 2017/2016	100	100	—	100	114	125	64	101	100	147	—	—	122	167	96	100

資料: 蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

注) 2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source: "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics"

(10) 品目別・二次製品輸入数量 (生糸量換算試算)

Breakdown of Silk Second Products Imports (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000 Bales of 60k)

項目 Item	暦年 Calendar Year	2012	2013	2014	2015	2016	2017	前年比% y/y	構成比% ratio
	布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments	2.4	3.1	3.4	2.4	2.2	1.7	77.3
女子用外衣類 Women's upper garments		50.0	63.5	53.4	65.6	73.9	81.2	109.9	50.2
うちブラウス Blouse of the inside		2.2	6.0	2.9	1.2	1.0	0.9	90.0	0.6
男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		1.5	1.9	2.0	1.3	1.9	2.2	115.8	1.4
女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		15.5	20.5	21.9	18.8	20.3	22.1	108.9	13.7
ハンカチ Handkerchief		0.3	0.4	0.3	0.3	0.2	0.3	150.0	0.2
ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		2.3	2.2	2.0	1.9	1.5	1.4	93.3	0.9
ネクタイ類 Ties		12.8	11.9	9.7	7.8	7.9	10.5	132.9	6.5
メリヤス、クロセス編物 Knit. kurose knitting		22.7	26.1	20.4	17.9	23.2	11.1	47.8	6.9
その他の洋装類 Other western clothes		19.1	18.9	17.8	15.9	15.4	14.8	96.1	9.1
洋装類計 Western clothes subtotal	126.6	148.5	130.9	131.9	146.5	162.4	110.9	100.3	
和装類計 Japanese clothes subtotal	11.8	13.0	12.2	10.3	11.5	13.9	120.9	8.6	
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessories of the inside	10.1	11.0	10.1	8.6	10.1	12.3	121.8	7.6	
その他 Others	3.2	2.3	1.8	2.6	2.5	2.6	104.0	1.6	
合計 Total		141.6	163.8	144.9	144.7	160.5	161.9	100.9	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」

注)：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"

Note：Total may not added up due to round off.

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
	2010	240	299	263
	2011	189	162	237
	2012	185	209	183
	2013	142	137	188
	2014	128	158	158
	2015	116	159	115
	2016	115	110	120
	2017	103	120	103
	2018	92	117	78
2016	— 1	0	8	107
	2	0	11	96
	3	0	13	83
	4	0	9	74
	5	0	8	66
	6	23	6	83
	7	24	10	97
	8	10	8	99
	9	7	10	96
	10	39	8	127
	11	12	10	129
	12	0	9	120
2017	— 1	1	8	113
	2	0	9	104
	3	0	8	96
	4	1	9	88
	5	0	12	76
	6	22	9	89
	7	25	9	105
	8	12	9	108
	9	1	12	97
	10	33	11	119
	11	8	12	115
	12	0	12	103
2018	— 1	0	9	94
	2	2	8	88
	3	0	11	77
	4	0	8	69
	5	0	12	57
	6	18	10	65
	7	20	8	77
	8	9	8	78
	9	0	11	66
	10	36	11	91
	11	8	10	89
	12	0	11	78
2019	— 1	2	9	71

資料：農林水産省生産局（～2010. 3）中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会（2010. 4～2012. 11）

中央蚕糸協会（2012. 12～2018. 10）（一財）大日本蚕糸会（2018. 11～）

備考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

3. 2015年9月の消費数量は焼失分29tを含む。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2010. 3）.

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association（2010. 4～2012. 11）.

Central Raw Silk Association（2012. 12～2018. 10）. The Dainippon Silk Foundation（2018. 11～）

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況

Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
曆 年 Calendar Year							
	2010	7	118	58	49	247	73
	2011	7	110	57	52	252	65
	2012	7	110	39	35	243	56
	2013	9	110	38	31	249	58
	2014	9	110	38	34	261	58
	2015	8	110	33	30	263	53
	2016	8	110	29	26	267	57
	2017	8	110	31	28	266	54
	2018	8	74	34	46	253	54
2016 -	1	7	110	25	23	19	53
	2	6	110	34	31	22	57
	3	6	110	36	33	23	57
	4	7	110	31	28	23	58
	5	6	110	21	19	21	50
	6	7	110	20	19	23	49
	7	8	110	31	28	23	63
	8	7	110	31	28	21	59
	9	7	110	30	27	23	58
	10	8	110	30	27	24	61
	11	8	110	29	26	22	61
	12	8	110	30	27	23	55
2017 -	1	7	110	33	30	19	51
	2	7	110	31	28	22	51
	3	6	110	19	17	23	42
	4	6	110	21	19	23	48
	5	7	110	33	30	23	58
	6	8	110	32	29	23	62
	7	7	110	21	19	24	52
	8	6	110	35	32	22	48
	9	7	110	38	35	23	59
	10	8	110	34	31	22	62
	11	7	110	36	33	22	61
	12	7	110	41	37	20	59
2018 -	1	7	74	37	50	16	58
	2	6	74	28	38	19	48
	3	6	74	23	31	24	48
	4	5	74	25	34	22	39
	5	6	74	43	58	21	49
	6	8	74	34	46	24	61
	7	8	74	31	42	22	59
	8	7	74	40	54	17	53
	9	7	74	37	50	22	56
	10	7	74	34	46	24	61
	11	7	74	35	47	22	61
	12	7	74	35	47	20	57
2019 -	1	7	74	36	49	20	56

資料：農林水産省生産局(～2010.3) 中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)

中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

備考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

Central Raw Silk Association(2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

Remarks：1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	一 般 在 庫 Stock in markets			
	計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers
年 月 Year & Month				
暦 年 Calendar Year				
2010	3,329	319	2,354	656
2011	2,456	288	1,651	517
2012	2,180	124	2,056	
2013	1,712	110	1,602	
2014	1,653	78	1,575	
2015	1,410	94	1,316	
2016	1,406	130	1,276	
2017	1,747	156	1,591	
2018	1,330	230	1,100	
2016 — 1	1,343	93	1,251	
2	1,364	97	1,267	
3	1,637	119	1,518	
4	1,249	116	1,133	
5	1,470	114	1,356	
6	1,394	111	1,283	
7	1,432	107	1,325	
8	1,448	111	1,337	
9	1,378	118	1,260	
10	1,428	110	1,318	
11	1,420	123	1,297	
12	1,406	130	1,276	
2017 — 1	1,447	129	1,318	
2	1,500	127	1,373	
3	1,634	124	1,510	
4	1,538	112	1,426	
5	1,550	123	1,427	
6	1,538	116	1,422	
7	1,484	107	1,377	
8	1,549	107	1,442	
9	1,705	119	1,586	
10	1,711	123	1,588	
11	1,722	138	1,584	
12	1,747	156	1,591	
2018 — 1	1,822	156	1,666	
2	1,737	158	1,579	
3	1,661	166	1,495	
4	1,540	161	1,379	
5	1,709	174	1,535	
6	1,647	184	1,463	
7	1,632	182	1,450	
8	1,560	188	1,372	
9	1,475	199	1,276	
10	1,440	216	1,224	
11	1,319	219	1,100	
12	1,330	230	1,100	
2019 — 1	1,355	230	1,125	

資料：農林水産省生産局(～2010.3) 中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)

中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

注：農畜産業振興機構の蚕糸業務は2008年に終了。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).

Central Raw Silk Association(2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation(2018.11～)

Note：Agriculture&Livestock Industries Corporation ended the activities related with silk industry in 2008.

(14) 蚕糸関係品目別輸入状況

Breakdown of Silk-Related Products Imports

	単位 Unit	平成31年(2019)		平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	30年/29年 2018/2017 (%)
		(1月) Jan.	(累計) Accumulat ed Total							
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bales of 60kg	382	382	9,332	8,235	6,479	6,546	7,560	5,038	66.6
絹糸 Silk Yarn	俵 Bales of 60kg	855	855	15,844	14,820	14,051	12,094	14,560	11,092	76.2
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bales of 60kg	12	12	169	48	33	41	39	18	46.2
繭 Cocoon	kg	-	-	8,300	10,200	6,800	7,000	6,400	7,000	109.4
くず繭 Waste Cocoon	kg	-	-	13,314	11,728	8,860	4,602	6,289	6,829	108.6
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	1,030	1,030	92,024	101,655	89,984	53,737	57,361	89,045	155.2
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	1,030	1,030	105,338	113,383	98,844	58,339	63,650	95,874	150.6
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	21,300	21,300	438,786	453,450	343,101	331,100	320,022	286,235	89.4
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	12,022	12,022	152,749	141,707	148,796	121,788	118,382	149,274	126.1
絹織物 Silk Fabrics	m ²	485,918	485,918	6,661,585	6,097,501	5,468,177	5,206,131	4,896,980	4,150,559	84.8

資料：財務省関税局

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance

(15) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)
(Unit : Bales of 60kg)

国名 Country	計 Total	中国 China	ブラジル Brazil	ベトナム Vietnam	タイ Thailand	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦年 Calendar Year						
2010	12209 (65)	8411 (40)	3706 (25)	-	32	-
2011	9323 (63)	7170 (32)	2136 (30)	-	5	-
2012	10032 (49)	8628 (36)	1403 (13)	-	-	-
2013	9332 (98)	8047 (59)	1275 (34)	10 (5)	-	-
2014	8241 (90)	7001 (75)	1143 (15)	70	0	20
2015	6479 (58)	5569 (49)	887 (9)	20	2	-
2016	6546 (52)	5378 (44)	1142 (8)	24	2	-
2017	7560 (68)	6008 (62)	1456 (5)	91	2	1
2018	5038 (51)	3484 (46)	1446 (5)	50	59	-
2016 - 1	423	299 (10)	124	-	-	-
2	595	493	102 (3)	-	-	-
3	636	596	40	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-
5	726 (15)	557 (15)	167	-	2	-
6	555 (10)	503 (5)	52 (5)	-	-	-
7	642 (7)	523 (7)	118	1	-	-
8	589	499	88	2	-	-
9	520 (5)	447 (5)	73	-	-	-
10	602 (2)	442 (2)	160	-	-	-
11	664	599 (10)	64	-	-	-
12	596	421	154	21	-	-
2017 - 1	552 (7)	453 (7)	99	-	-	-
2	509 (8)	443 (8)	66	-	-	-
3	805	636	137	30	2	-
4	-	-	-	-	-	-
5	997 (9)	708 (8)	289 (0)	-	-	-
6	735 (5)	591 (5)	117	27	-	-
7	437 (1)	321	85 (1)	32	-	-
8	839 (8)	653 (6)	186 (2)	-	-	-
9	664 (4)	584 (4)	81	-	-	-
10	700 (17)	603 (17)	94	3	-	1
11	760 (7)	593 (5)	167 (2)	-	-	-
12	561 (2)	424 (2)	136	-	-	-
2018 - 1	778 (4)	640 (4)	116	-	22	-
2	401	266	135	-	-	-
3	496 (5)	385 (5)	100	-	11	-
4	-	-	-	-	-	-
5	926 (17)	667 (15)	259 (2)	-	-	-
6	348	234	95	-	20	-
7	348 (13)	343 (13)	5	-	-	-
8	423 (6)	182 (3)	241 (3)	-	-	-
9	184 (5)	78 (5)	105	-	-	-
10	431 (1)	225 (1)	206	-	-	-
11	346	214	81	50	1	-
12	358	249	104	-	5	-
2019 - 1	382 (8)	299 (5)	80	-	3 (3)	-

資料：財務省関税局

備考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for dupion silk imports.

(16) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of

60kg)

年月 Year & Month	国名 Country	計 Total	中国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦年 Calendar Year								
2010		16,306	9,675	4,161	16	—	1,716	205
2011		17,526	10,384	5,129	7	—	1,131	212
2012		16,179	9,924	4,908	15	—	1,109	223
2013		15,844	9,148	5,783	33	—	878	3
2014		14,820	8,190	5,733	8	—	867	22
2015		14,051	7,928	5,586	4	0	531	2
2016		12,094	7,289	4,074	16	0	711	4
2017		14,560	8,431	5,256	10	0	862	0
2018		11,092	6,217	4,031	10	0	802	32
2016 —	1	1,101	564	476	—	—	62	—
	2	797	468	292	0	0	35	2
	3	911	579	289	—	—	42	—
	4	1,047	659	357	—	—	30	1
	5	900	538	255	4	—	102	—
	6	1,295	802	442	—	—	51	—
	7	1,072	573	423	—	—	76	—
	8	967	566	332	—	—	69	—
	9	946	598	294	2	—	51	—
	10	862	548	250	—	—	62	2
	11	1,161	783	295	7	0	76	—
	12	1,035	610	368	1	—	55	—
2017 —	1	1,314	931	326	2	—	54	—
	2	535	199	307	3	—	26	—
	3	1,376	725	540	0	—	111	—
	4	1,255	630	595	—	—	30	—
	5	1,389	844	423	—	0	121	—
	6	1,285	821	397	—	—	67	—
	7	960	493	426	0	—	40	—
	8	1,443	795	534	1	—	112	—
	9	1,259	838	371	—	—	50	0
	10	815	459	313	2	0	41	—
	11	1,542	833	570	1	—	137	—
	12	1,388	862	454	1	0	71	—
2018 —	1	1,200	613	526	1	—	60	—
	2	798	449	299	1	—	49	—
	3	1,080	598	370	2	0	109	—
	4	929	553	365	0	—	10	—
	5	1,127	666	321	—	—	141	—
	6	941	417	443	—	—	81	—
	7	788	459	318	—	—	12	—
	8	706	301	279	—	—	98	27
	9	817	485	266	1	—	66	—
	10	936	599	234	1	—	99	4
	11	953	540	386	1	—	25	0
	12	819	538	226	2	—	52	1
2019 —	1	855	545	251	3	—	57	—

資料：財務省関税局

備考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：Country volume may not add up the total volume due to round off.

(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価

Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵、円/kg

Unit:bale of 60kg.yen/kg

項目 Item	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import						
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam		
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	
暦年 Calendar Year											
2010	8,411	3,667	3,706	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,606	3,411	
2011	7,170	4,469	2,136	5,492	10,384	4,707	1,722	5,398	5,429	4,402	
2012	8,628	4,293	1,404	5,290	9,924	4,383	1,110	6,078	4,908	4,493	
2013	8,047	5,954	1,275	7,420	9,148	6,150	878	8,409	5,783	6,091	
2014	6,925	6,449	1,127	8,362	8,190	6,609	867	9,480	5,743	6,794	
2015	5,520	6,803	879	8,199	7,928	6,908	531	9,261	5,586	7,283	
2016	5,334	5,614	1,134	6,164	7,289	5,764	711	6,654	4,074	5,946	
2017	5,946	6,574	1,451	6,517	8,431	6,762	862	7,381	5,256	6,627	
2018	3,438	7,973	1,441	7,857	6,217	8,090	802	8,551	4,031	7,754	
2016 - 1	289	6,176	124	6,937	564	6,281	62	7,798	476	6,358	
2	493	6,000	99	7,188	468	6,279	35	7,786	292	6,422	
3	596	5,838	40	5,973	579	5,969	42	7,248	289	6,056	
4	-	-	-	-	659	5,668	30	6,711	357	6,090	
5	542	5,541	167	6,027	538	5,636	102	6,759	255	5,730	
6	498	5,497	47	5,933	802	5,641	51	6,361	442	5,777	
7	516	5,332	118	5,566	573	5,360	76	6,157	423	5,419	
8	499	5,370	88	5,194	566	5,549	69	6,104	332	5,340	
9	442	5,217	73	5,565	598	5,395	51	6,087	294	5,636	
10	440	5,276	160	6,069	548	5,420	62	6,122	250	5,883	
11	599	5,575	64	5,460	783	5,716	76	6,425	295	6,101	
12	421	6,156	154	6,884	610	6,382	55	7,049	368	6,480	
2017 - 1	446	6,355	99	6,513	931	6,657	54	7,305	326	6,623	
2	435	5,944	66	6,352	199	6,385	26	7,265	307	6,541	
3	636	6,287	137	6,509	725	6,585	111	7,301	540	6,641	
4	-	-	-	-	630	6,213	30	6,987	595	6,115	
5	700	6,219	288	6,363	844	6,551	121	7,397	423	6,382	
6	586	6,234	117	6,654	821	6,398	67	7,331	397	6,364	
7	321	6,457	84	6,742	493	6,743	40	7,527	426	6,781	
8	647	6,313	184	6,645	795	6,611	112	7,221	534	6,577	
9	580	6,629	81	6,485	838	6,760	50	7,240	371	6,703	
10	586	6,996	94	6,847	459	7,011	41	7,433	313	6,907	
11	588	7,487	165	6,673	833	7,288	137	7,539	570	6,926	
12	422	7,495	136	6,112	862	7,580	71	7,729	454	7,083	
2018 - 1	636	7,911	116	6,975	613	7,868	60	7,593	526	7,120	
2	266	7,749	135	6,760	449	7,974	49	7,531	299	7,350	
3	380	7,927	100	7,033	598	8,045	109	7,625	370	7,295	
4	-	-	-	-	553	8,305	10	7,806	365	7,413	
5	652	8,465	257	7,266	666	8,708	141	8,010	321	7,555	
6	234	8,204	95	7,869	417	8,962	81	8,645	443	7,415	
7	330	8,112	5	6,983	459	8,758	12	9,540	318	8,626	
8	179	8,554	238	8,060	301	8,595	98	8,678	279	8,349	
9	73	8,327	105	8,160	485	8,460	66	9,131	266	8,633	
10	224	7,661	206	8,882	599	7,448	99	9,738	234	8,495	
11	214	7,200	81	9,098	540	7,307	25	9,676	386	7,960	
12	249	7,175	104	8,790	538	7,134	52	10,020	226	7,906	
2019 - 1	294	6,522	80	7,491	545	6,702	57	8,335	251	7,645	

資料：財務省 通関統計による、単価はC I F価格である。

Source : The customs Bureau ,Ministry of Finance

Remarks : A unit price is CIF price.

(18) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)
(Unit: 1,000sq.meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics									
		広巾織物 Double Width				小巾織物 Single Width				その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics	
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先練 (先染) Dyed Yarn			
年 月 Year & Month	暦 年 Calendar Year										
		2010	3,611	1,379	871	66	442	1,538	630	908	694
		2011	3,152	1,438	786	62	591	1,003	562	441	711
		2012	2,912	1,357	738	54	565	879	429	449	677
		2013	2,940	1,428	813	46	569	809	397	412	703
		2014	2,734	1,441	803	40	599	665	298	367	628
		2015	2,316	1,228	664	35	529	630	283	347	458
		2016	2,243	1,191	620	38	533	603	266	337	449
		2017	2,195	1,185	639	50	497	587	272	315	422
		2018	2,120	1,162	621	45	495	575	272	303	383
	2016 —	1	172	94	54	3	37	44	18	26	34
		2	173	85	53	3	30	51	24	28	37
		3	190	99	56	3	39	52	23	29	39
		4	214	117	53	3	61	58	24	34	39
		5	204	117	52	3	61	51	20	31	36
		6	213	114	53	3	58	54	25	29	45
		7	181	89	50	4	35	50	23	28	41
		8	160	81	48	3	30	45	21	24	35
		9	171	87	49	3	35	49	22	27	35
		10	187	98	50	3	45	52	23	29	37
		11	190	104	52	3	49	50	23	27	36
		12	188	106	50	3	53	47	21	25	35
	2017 —	1	161	86	49	4	33	43	19	24	32
		2	171	85	52	4	29	49	24	25	37
		3	187	96	56	4	36	52	23	29	39
		4	187	99	53	4	42	51	24	27	37
		5	182	100	51	4	45	50	22	27	33
		6	205	113	53	4	55	54	25	29	38
		7	182	102	56	5	41	48	22	25	32
		8	162	88	51	4	33	43	20	24	31
		9	168	87	53	5	29	48	22	26	33
		10	194	107	54	4	49	50	24	26	36
		11	199	111	55	4	52	51	23	28	37
		12	199	113	55	5	53	49	23	26	37
	2018 —	1	169	99	53	4	43	41	20	22	28
		2	175	100	52	3	44	46	22	24	30
		3	180	93	55	3	36	50	25	25	36
		4	193	107	54	4	49	51	25	26	35
		5	188	101	51	4	46	48	23	25	39
		6	195	103	50	4	49	54	24	30	38
		7	169	88	49	4	35	47	22	24	35
		8	157	85	48	4	33	43	20	23	29
		9	156	84	52	4	27	45	22	24	27
		10	180	100	56	4	41	50	23	26	31
		11	181	101	51	4	46	51	24	27	29
		12	176	100	49	4	47	50	23	27	27
	2019 —	1	155	89	46	4	39	41	19	22	26

資料：(一社)日本絹人織物工業会

備考：絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source: Japan Silk & Rayon Weaver's Association.

Remarks: Spun and mixed fabrics included. Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(19)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2010	3,611	36.3	515,721	102.5	84,023	110.0	859,244	115.1
2011	3,152	87.3	475,989	92.3	70,803	84.3	692,943	80.6
2012	2,912	92.4	451,503	94.9	62,910	88.9	645,679	92.9
2013	2,940	101.0	433,451	96.0	55,792	88.7	630,586	97.7
2014	2,734	93.0	400,192	92.3	53,174	95.3	600,917	95.3
2015	2,316	84.7	351,309	87.8	41,893	78.8	526,417	87.6
2016	2,243	96.8	310,271	88.3	38,063	90.9	488,144	92.7
2017	2,195	97.9	294,451	94.9	36,227	95.2	477,594	97.8
2018	2,120	96.6	282,158	95.8	36,316	100.2	426,796	89.4
2016 - 1	172	90.1	22,012	92.6	2,707	74.7	39,031	82.0
2	172	94.5	28,277	81.3	3,482	89.4	44,351	102.0
3	190	99.0	25,517	81.9	3,284	73.4	49,298	99.8
4	214	102.9	29,177	93.2	3,167	76.9	47,090	92.7
5	204	112.1	24,051	80.7	3,228	104.0	43,230	99.7
6	213	98.2	26,552	85.0	3,393	84.6	43,263	103.3
7	181	87.9	26,799	94.7	3,169	89.4	36,125	78.7
8	161	100.0	21,611	79.5	3,302	105.8	32,724	93.8
9	171	93.4	26,624	93.3	3,175	97.1	36,533	83.1
10	187	94.4	26,625	92.6	3,356	119.5	38,158	86.1
11	190	98.4	24,839	82.8	3,244	103.4	39,561	104.3
12	188	94.0	28,187	106.7	2,556	91.7	38,780	88.3
2017 - 1	161	93.6	19,191	87.2	2,721	100.5	40,302	103.3
2	171	99.4	25,321	89.5	2,680	77.0	37,708	85.0
3	187	98.4	23,533	92.2	3,134	95.4	42,381	86.0
4	187	87.4	28,368	97.2	3,153	99.6	42,281	89.8
5	182	89.2	22,784	94.7	3,158	97.8	43,917	101.6
6	205	96.2	28,370	106.8	3,096	91.2	43,127	99.7
7	182	100.6	26,213	97.8	3,217	101.5	35,048	97.0
8	162	100.6	19,448	90.0	2,652	80.3	30,977	94.7
9	168	98.2	26,458	99.4	3,039	95.7	39,274	107.5
10	194	103.7	25,167	94.5	3,164	94.3	38,479	100.8
11	199	104.7	23,926	96.3	3,049	94.0	41,467	104.8
12	199	105.9	25,672	91.1	3,164	123.8	42,670	110.0
2018 - 1	169	105.0	17,326	90.3	3,005	110.4	35,097	87.1
2	175	102.3	25,063	99.0	2,912	108.7	36,007	95.5
3	180	96.3	23,373	99.3	3,289	104.9	40,384	95.3
4	193	103.2	25,842	91.1	3,243	102.9	41,773	98.8
5	188	103.3	20,935	91.9	3,345	105.9	37,871	86.2
6	195	95.1	27,319	96.3	2,820	91.1	35,102	81.4
7	169	92.9	25,225	96.2	3,376	104.9	32,378	92.4
8	157	96.9	19,518	100.4	2,621	98.8	29,797	96.2
9	156	92.9	25,448	96.2	2,708	89.1	29,607	75.4
10	180	92.8	22,919	91.1	3,137	99.1	39,136	101.7
11	181	91.0	25,178	105.2	3,047	99.9	32,662	78.8
12	176	88.4	24,012	93.5	2,813	88.9	36,982	86.7
2019 - 1	155	91.7	15,850	91.5	2,510	83.5	31,925	91.0
2			24,978	99.7	2,783	95.6		

資料：絹織物生産数量は(一社)日本絹人織織物工業会 主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

Source: Japan Silk & Rayon Weaver's Association

一資料・海外一

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2010年	2011年	2012年
		トン	トン	トン
日本	Japan	265	220	202
中国	China	621,000	661,000	655,000
インド	India	131,924	139,871	144,434
ウズベキスタン	Uzbekistan	23,942	24,667	25,012
イラン	Iran	9,780	10,208	10,637
タイ	Thailand	4,650	4,580	4,580
ブラジル	Brazil	4,439	3,037	2,620
ベトナム	Vietnam	2,570	2,500	2,500
北朝鮮	North Korea	1,016	900	900
トルコ	Turkey	126	151	134
ブルガリア	Bulgaria	75	48	73
インドネシア	Indonesia	161	143	143
シリア	Syria	3.0	5	6.0
主要国の計	Total	799,951	847,330	846,241

区 分		2013年	2014年	2015年
		トン	トン	トン
日本	Japan	168	149	135
中国	China	643,000	641,000	628,000
インド	India	142,487	164,538	157,524
ウズベキスタン	Uzbekistan	26,455	25,000	27,237
イラン	Iran	11,065	11,493	12,538
タイ	Thailand	4,755	4,839	4,881
ブラジル	Brazil	2,608	2,563	2,544
ベトナム	Vietnam	2,500	2,495	2,515
北朝鮮	North Korea	900	857	937
トルコ	Turkey	121	80	75
ブルガリア	Bulgaria	73	65	65
インドネシア	Indonesia	114	71	57
シリア	Syria	5.0	5.0	3.0
主要国の計	Total	834,251	853,155	836,511

注1 日本は(一財)大日本蚕糸会、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)及びFAOの統計値を使用した。

注2 生糸生産量からの推計を含む。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2010年		2011年		2012年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	53	882	44	731	30	506
中国	China	96,000	1,600,000	104,000	1,733,333	126,000	2,100,000
インド	India	16,360	272,667	18,272	304,533	18,715	311,917
ウズベキスタン	Uzbekistan	940	15,667	940	15,667	940	15,667
タイ	Thailand	665	11,083	655	10,917	655	10,917
ブラジル	Brazil	770	12,833	558	9,300	440	7,333
ベトナム	Vietnam	460	7,667	448	7,467	448	7,467
イラン	Iran	75	1,250	120	2,000	123	2,050
北朝鮮	North Korea	102	1,700	90	1,500	90	1,500
トルコ	Turkey	18	300	22	367	19	317
インドネシア	Indonesia	20	333	20	333	20	333
ブルガリア	Bulgaria	9.2	153	5.9	98	9.0	150
シリア	Syria	0.6	10	0.5	8	0.5	8
主要国の計	Total	115,473	1,924,545	125,175	2,086,254	147,490	2,458,164

区 分		2013年		2014年		2015年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	25	409	27	446	23	378
中国	China	125,000	2,083,333	125,000	2,083,333	122,000	2,033,333
インド	India	19,476	324,600	21,390	356,500	20,474	341,233
ウズベキスタン	Uzbekistan	980	16,333	1,100	18,333	1,200	20,000
タイ	Thailand	680	11,333	692	11,533	698	11,633
ブラジル	Brazil	440	7,333	433	7,217	463	7,717
ベトナム	Vietnam	448	7,467	447	7,450	450	7,500
イラン	Iran	123	2,050	110	1,833	120	2,000
北朝鮮	North Korea	90	1,500	86	1,433	94	1,567
トルコ	Turkey	17	283	11	183	11	183
インドネシア	Indonesia	16	267	10	167	8	133
ブルガリア	Bulgaria	9.0	150	8	133	8	133
シリア	Syria	0.7	12	0.5	8	0.3	5
主要国の計	Total	147,305	2,455,071	149,315	2,488,571	145,549	2,425,816

注1 日本は(一財)大日本蚕糸会、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)及びFAOの統計値を使用した。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

(3)中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)					生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)				
		2011	2012	2013	2014	2015	2011	2012	2013	2014	2015
山 西	Shanxi	6,675	6,001	4,945	4,872	2,935	64	55	65	61	81
河 北	Hebei										6
遼 寧	Liaoning						4,184	2,463	2,310	4,504	2,948
江 蘇	Jiangsu	65,618	66,537	54,501	52,645	49,100	13,003	19,493	20,949	29,738	27,153
浙 江	Zhejiang	50,885	46,728	45,256	38,442	35,600	5,748	6,688	14,293	15,505	16,060
安 徽	Anhui	25,185	21,601	18,286	16,488	17,000	5,040	8,139	8,909	9,101	8,057
江 西	Jiangxi	9,179	9,216	9,121	9,072	8,800		3,021	4,653	6,225	6,680
山 東	Shandong	20,000	22,000	21,200	20,800	19,200	3,613	5,452	4,949	3,414	2,396
河 南	Henan	10,023	10,003	9,608	7,984	5,100			1,972	2,160	1,169
湖 北	Hubei	17,300	16,850	16,550	16,450	7,700	437	572	1,007	1,683	1,663
湖 南	Hunan	2,596	2,336	2,595	2,988	3,000					
広 東	Guangdong	75,066	45,000	36,523	35,659	35,600	1,183	1,548	1,726	2,312	2,724
広 西	Guangxi	231,005	256,000	271,000	279,500	286,500	8,312	27,834	35,425	40,645	46,496
重 慶	Chongqing	17,144	16,716	15,711	15,733	15,000	3,811	3,402	3,653	4,730	4,632
四 川	Sichuan	74,008	74,600	76,000	77,000	76,000	27,742	27,268	29,065	38,096	40,203
貴 州	Guizhou	2,410	2,226	2,226	2,161	1,530	182	128	234	291	594
雲 南	Yunnan	40,000	43,000	44,648	46,016	62,400	2,108	2,777	2,814	3,433	4,379
陝 西	Shaanxi	17,999	11,080	12,014	12,500	12,000	4,391	4,642	5,067	5,386	6,872
甘 肅	Gansu	373	385	364	348	310					
寧 夏	Ningxia	575	610	826	578	0					
新 疆	Xinjiang	100	150	100	100	130					
合 計	Total	667,240	654,990	643,024	641,006	637,905	79,817	113,478	137,090	167,284	172,114

資料：中国絲綢年鑑による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格
Spot Price of Various Silk Goods

2018年11月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	95.75 ~ 111.50	1,532 ~ 1,784
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	115.75 ~ 136.50	1,852 ~ 2,184
3	玉繭(double cocoon)		90.75 ~ 110.00	1,452 ~ 1,760
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	102.00 ~ 103.00	1,632 ~ 1,648
5	ビス(bisu)		97.00 ~ 109.00	1,552 ~ 1,744
6	生糸(raw silk)	21d、工場検査	351.50 ~ 362.25	5,624 ~ 5,796
7	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	356.50 ~ 377.25	5,704 ~ 6,036
8	生糸(raw silk)	42d、工場検査	356.50 ~ 376.50	5,704 ~ 6,024
9	玉糸(doupion silk)	110d	377.50 ~ 396.50	6,040 ~ 6,344
10	土糸(native silk)	110d	380.50 ~ 402.50	6,088 ~ 6,440
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	36.50 ~ 38.50	584 ~ 616
12	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	29.50 ~ 37.50	472 ~ 600
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	57.50 ~ 64.50	920 ~ 1,032
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	52.50 ~ 55.50	840 ~ 888
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	41.50 ~ 46.50	664 ~ 744

注:1元=16円

2018年12月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	95.50 ~ 111.25	1,528 ~ 1,780
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	115.50 ~ 136.50	1,848 ~ 2,184
3	玉繭(double cocoon)		90.00 ~ 109.00	1,440 ~ 1,744
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	92.50 ~ 101.50	1,480 ~ 1,624
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	347.50 ~ 363.00	5,560 ~ 5,808
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	352.50 ~ 376.50	5,640 ~ 6,024
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	347.50 ~ 362.50	5,560 ~ 5,800
8	玉糸(doupion silk)	110d	371.00 ~ 390.00	5,936 ~ 6,240
9	土糸(native silk)	110d	373.00 ~ 396.00	5,968 ~ 6,336
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	36.50 ~ 38.50	584 ~ 616
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	29.50 ~ 37.50	472 ~ 600
12	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	57.25 ~ 64.25	916 ~ 1,028
13	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	52.50 ~ 55.50	840 ~ 888
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	41.50 ~ 46.50	664 ~ 744

注:1元=16円

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省、嘉興)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

2019年1月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	97.60 ~ 111.80	1,562 ~ 1,789
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	116.80 ~ 136.80	1,869 ~ 2,189
3	玉繭(double cocoon)		90.20 ~ 109.20	1,443 ~ 1,747
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	90.00 ~ 100.00	1,440 ~ 1,600
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	348.00 ~ 363.00	5,568 ~ 5,808
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	353.00 ~ 375.00	5,648 ~ 6,000
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	340.00 ~ 350.00	5,440 ~ 5,600
8	玉糸 (doupion silk)	110d	366.00 ~ 385.00	5,856 ~ 6,160
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	36.60 ~ 45.20	586 ~ 723
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	57.60 ~ 65.20	922 ~ 1,043
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	53.10 ~ 56.70	850 ~ 907
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	42.10 ~ 47.70	674 ~ 763

注:1元=16円

2019年2月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	100.00 ~ 113.00	1,600 ~ 1,808
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	118.00 ~ 138.00	1,888 ~ 2,208
3	玉繭(double cocoon)		92.00 ~ 111.00	1,472 ~ 1,776
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	90.00 ~ 100.00	1,440 ~ 1,600
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	351.00 ~ 366.00	5,616 ~ 5,856
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	356.00 ~ 376.25	5,696 ~ 6,020
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	340.00 ~ 350.00	5,440 ~ 5,600
8	玉糸 (doupion silk)	110d	366.00 ~ 385.00	5,856 ~ 6,160
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	37.00 ~ 46.00	592 ~ 736
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	58.13 ~ 66.13	930 ~ 1,058
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	53.63 ~ 57.63	858 ~ 922
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	42.63 ~ 48.63	682 ~ 778

注:1元=16円

※「シルクレポート」の記事と統計データは、下記のホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp>

シルクレポート 2019年4月号 No.61 平成31年4月1日発行

編集 / 発行

一般財団法人大日本蚕糸会

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館6階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3511

URL:<http://www.silk-teikei.jp>

製本 / 印刷

株式会社正大印刷社

無断転載禁ず